

## 加賀藩領の万雑関係史料（七）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-04-07 キーワード: 作成者: 上田 長生, Hisao UEDA メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/0002002334">https://doi.org/10.24517/0002002334</a>

## 加賀藩領の万雑関係史料（七）

上田 長生

### 紹介にあたって

これまでに引き続き、本号では加賀藩領の地域的入用たる万雑（万造）について、砺波郷土資料館所蔵竹部弥平次文書と富山大学附属図書館所蔵菊池文書から、一点ずつ関係文書を翻刻・紹介する。

史料26「万雑方覚帳」は、安政二年（一八五五）から慶応三年（一八六七）までの越中国砺波郡の郡万雑に関する記録である。その内容は、毎年二回の各十村組の万雑額や会計処理の詳細、幕末期の物価高騰を受けて、郡関係の諸役人の増給を郡奉行・改作奉行に願った願書類、時々の万雑に関わる規定など多岐にわたる。一三年間の一郡レベルの万雑の推移が分かる点、十村による郡中運営に関わる諸規定が豊富に含まれる点など、極めて重要な史料である。

史料26を作成した竹部弥平次（一八三四〜一九一八）について、『砺波市歴史資料調査報告書』第六集（砺波郷土資料館、一九九六年）の解説をもとに簡潔に紹介すると、砺波郡頼成村（富山県砺波

市）武部喜兵衛の二男に生まれ、同村肝煎・針山口水の江肝煎である分家弥三右衛門の養子となったという（「竹部」は明治三年以降名乗った姓）。測量術で著名な同国射水郡高木村（同県射水市）の石黒信由の家学などに学び、嘉永七年（一八五四）田地割分地人を藩から命じられて以降、敦賀・琵琶湖間糧道計画の測量方や砺波郡尿物取調役など、測量・算用に関わる諸役を歴任している。本史料は、砺波郡十村達から「御郡万造しらへ方」に任じられ、作成されたものである。詳細は右の解説を参照されたいが、弥平次は維新後も、県・郡の吏員として、算勘の能力を買われて活躍している。

史料27「子孫為心得<sup>秘</sup>杖写等覚帳」は、砺波郡野尻村（同県南砺市）の十村であった菊池家に残った史料であるが、実際の作成者は同郡権正寺村出身の十村島孫八と考えられる。孫八は文政八年（一八二五）に山廻列を命じられて、同家から初めて十村になり、その後も昇進を重ね、天保九年（一八三八）には年寄並（十村制廃止期の平十村の呼称）となり、般若組・庄下組などを才許した。同一一年に

26、嘉永六〜明治四年「万雑方覚帳」

(砺波郷土資料館・竹部弥平次文書一三六九)

は射水郡八代組の十村に転出し、御扶持人並にまで急激に昇進し、嘉永七年（一八五四）には砺波郡五ヶ山両組才許として同郡に帰っているが、翌年郡奉行の詮議を受けて、罷免された。

孫八の急激な昇進は十村集団に波紋をもたらしただけで、彼を快く見ていなかった砺波郡三清村の十村武部与一郎が残した手記をもとに、十村集団内の派閥や権力関係の一端を検討したことがある（拙稿「加賀藩十村の「威権」と人事―幕末期の越中国砺波郡を中心に―」木越隆三編『加賀藩研究を切り拓くⅡ』桂書房、二〇二二年）。そこでは、あくまでも与一郎側の批判的な視点から孫八を描いた。

ところが、その後、菊池文書中に史料27を見出し、孫八自身による自らの事蹟や罷免についての弁明であることが分かった。弁明であることは、「子孫為心得秘写等覚帳」という表題にも表れている。

実は、孫八が射水郡や八代組で精神的に取り組もうとし、また郡内村々や与一郎ら他の十村に疑惑を生じさせたものの一つが、万雑や仕法銀などの地域的入用とその改革に他ならなかった。関連史料と突き合わせることで、万雑の改革が村々にどのような影響を与えたのか、それが十村役の人事にいかに関係したかといった問題を解明することができるだろう。なお、抹消・修正が多く、下書とみられる本史料がなぜ菊池文書に残ったのかは、今のところ不明である。

最後に、史料の一部に、身分差別に基づく名称がみられるが、歴史的身分について正しく理解するために、あえて原史料のまま掲載した。言うまでもなく、差別を容認するものではない。

※ 文字の抹消は■で表した。

(表紙)

<p>万雑方覚帳</p> <p>弥兵衛</p>
-------------------------

安政二年卯十二月御決算御寄合ニ而惣代等料銀御取極

一惣代方御用ニ而、金沢・小杉・高岡等宿料高直之ヶ所江出張之分

ハ、宿料共見込一日老人ニ付日懸り料三匁五分宛立渡可申事

一加役人出役先ニ而喰いたし候分飯代不払ニ付、一日老匁五分宛立渡、其村方取立可申事

附り杉木新町江出張しらへ方等いたし候分、宿料自分払ニ付、

宿料見込三匁宛相渡可申、併宿料高下見斗可申事

一縄張人出役之分ハ、料銀一日老人ニ付三匁宛、自宅ニ而絵図調候分ハ式匁宛、金沢等へ出張、絵図等調候分ハ、宿料之外一日式匁

宛之事

一 竿取人料銀一日式匁宛之事

一 無料 御通行方惣代

但飯料壹飯二付壹匁宛之余内ニ可仕候

一 壹匁 同断小使

但壹飯二付六分宛

一 大聖寺備後守様御通行之砌、惣代并小使共右ニ同シ

一 式匁 稻干入惣代料銀、但弁当見込

一 三匁五分 菜種方惣代、但宿料見込、併座料諸組割之分ハ余内

可申支

一 三匁 右同断、杉木詰之分

一 式匁 組方惣代料、但弁当見込

一 三匁 組方万雜惣代、但飯料見込

一 新田才許中并仕法銀主附中、杢木新町通玄等方江出張止宿之砌、

座料一日一夜四匁宛余内可申事

附り長逗留ニ相成候得ハ、別段金与坎銀与坎取扱之事

卯年ハ出張日数廿七日之処へ金子百疋別段遣候事

宮丸村九兵衛渡飯代定

上三拾四文

前々定中廿三文

下廿文

天保年中方諸色高直ニ付三文増

当時直段 上三拾七文

中廿六文

下廿三文

〔<sup>(朱書)</sup>元治元十一文増 慶応元廿五文増〕

金沢ニ而御寄合座料

夏一度 三匁宛

春 一度 五匁宛

冬 一度 五匁宛

以上

元治元年改

一 六匁 金沢行惣代等壹日分料銀、但往返日数共

一 三匁 惣代其日返之分<sup>(帰)</sup>

但居泊り候分ハ壹日壹泊り五匁

一 三匁五分 万造調理方惣代、其日帰り之分

但居泊り候分ハ五匁五分

一 三匁 御役所并相談所等調筆人

一 式匁 加役人先方ニ而喰いたし口分

一 四匁五分 繩張人先賄ニ而測量等いたし候分、一日料銀

一 三匁 同断先賄ニ而絵図等調候分、并日飯米ニ而絵図等

調候分共

一 三匁 竿取人先賄ニ而所作いたし候分

慶応元年改

御扶持人中等御用所行 杉木方

一五拾五文 宮丸村

一〇式拾五文 権正寺村

ノ式ケ所式拾文宛之増共

野尻村

一〇拾五文 金屋本江村

戸出村

三清村

一〇八拾五文 四日町村

中田村

一〇五拾文 大瀧村

一〇式拾五文 苗嶋村

一〇〇〇〇文 八塚村

田中村

一〇式拾五文 和泉村

内嶋村

一〇式百三拾文 埴生村

大西村

ノ拾四ケ所拾文宛増共

他郡

一〇式百五拾文 高岡町

一〇式百五拾文 嶋村

一〇式百六拾文 大門新町

一〇式百八拾文 水戸田村

一〇式百八拾文 土合新村

一〇式百八拾文 北野村

一〇式百八拾文 中川村

一〇式百四拾文 五十里村

一〇式百五拾文 吉久村

一〇式百〇拾文 伏木村

一〇式百〇拾文 作道村

一〇式百五拾文 小杵

外二〇式拾文増

ノ〇〇八拾文

一〇式百五拾五文 加納村

外式百文 宿賃

ノ七百廿五文

一六百文

富山

外貳百文

八百文

一三拾五文

三合新村

一六六拾文

東岩瀬

中村

外貳百文

八六六拾文

一四拾文

德万新村

一七七七拾文

金沢

一四拾五文

柳瀬新村

外

外

一五拾文

柳瀬村

權正寺方所々江之飛脚賃

元治元十二月改

八拾歩村

一拾五文

宮森村

一五拾五文

久泉村

頼成村

一貳拾文

宮森新村

一六拾文

柳上新村

福岡芹谷野村

芹谷野新村

一七拾文

安川新村

中条新村

福岡新村

一三拾文

祖泉村

頼成新村

徳万村

一五拾文

太田村

徳万村

一四拾文

大門村

庄金剛寺村  
寺尾村

一百拾文

畑野新村  
古上野村

一百拾五文

高儀新村  
筏村

五谷村  
井栗谷村

一百三拾文

伏木谷村

一百四拾文

川内村

丑閏五月改

一百拾五文

一七拾文

一百拾文

一百三拾文

一貳百六拾文

一貳百三拾文

一貳百貳拾文

一貳百拾文

一貳百八拾文

一三百五拾文

一三百貳拾文

一三百八拾文

一貳百八拾文

一三百文

一貳百四拾五文

一貳百四拾文

一三百三拾文

一五百六拾文

外二 宿賃

一八百四拾文

外二 宿賃

外二

但組才許・分役江遣候飛脚へ、右銀口二拾文宛増相渡可申事

丑閏五月

元治元年十二月 御郡万雑

一四貫百五匁四分三厘

一貳百五匁四分壹厘

四貫三百拾匁八分四厘

内四貫四拾貳匁貳分

残而貳百六拾八匁六分四厘

一五貫九百七拾五匁五分三厘

一拾七貫三百四拾五匁六分五厘

田中  
和泉

大西

三清

福町

八塚・木舟

大瀧

福光

沢川

金沢

宿賃

御役所向諸入用

火消方等

壺軒二付拾五文宛取立

相談所向諸入用

御郡諸入用

一六貫八百九分九厘  
 御場向諸入用  
 一八貫七百九拾目六分  
 御扶持人料紙等  
 一貳百貳拾四匁貳五厘  
 御詰米方  
 一三貫六百四拾四匁三分  
 山田組  
 一四貫百八拾八匁六分七厘  
 太美組  
 一三貫四百貳拾三匁三分六厘  
 井口組  
 一四貫六百八拾老匁九分三厘  
 石黒組  
 一三貫六百貳拾七匁三分三厘  
 蟹谷組  
 一三貫百五拾老匁貳分七厘  
 野尻組  
 一三貫四百拾四匁四分老厘  
 山見組  
 一三貫六百九拾三匁六分五厘  
 庄下組  
 一三貫六百拾貳匁八分三厘  
 般若組  
 一三貫五百六拾五匁三分貳厘  
 若林組  
 一三貫四百五拾六匁貳分六厘  
 糸岡組  
 一三貫七百目三分貳厘  
 宮嶋組  
 一四貫貳百拾四匁三分老厘  
 五位組  
 一四貫六拾貳匁五分四厘  
 国吉組  
 一老貫四百七拾貳匁七分七厘  
 飛騨守様  
 一老貫四百七拾貳匁七分七厘  
 桐松様方  
 一六貫貳百目六分四厘  
 定姫様  
 御手当方  
 一三貫目  
 馬下方  
 一三貫百目老分六厘  
 飛脚方  
 惣銀ノ百八貫百六拾六匁六分六厘

内四貫四拾貳匁貳分

残而百四貫百貳拾四匁四分六厘

内六貫貳百目六分四厘 御手当方

但此銀惣高貳拾五万六百七拾三石六斗三升五合二割、高百石二

付式匁四分七厘三毛五九ノ正<sup>(征)</sup>

九拾七貫九百貳拾三匁 御郡万雑

八匁貳分

但此銀右同断、高百石二付三拾九匁六厘四毛二六七式七

ノ百四貫百貳拾四匁四分六厘

此内

九拾四匁九分 征合ニ付本勘本造取立候迄調達

残而

百四貫貳拾九匁五分六厘

但三拾九匁貳厘六毛四一八御郡万造之正、式匁四分七厘三毛五

九八御手当方之正、式口合高百石二付四拾老匁五分正<sup>(征)</sup>

一老貫四拾九匁四厘

内拾老匁貳分六厘 新開方諸入用 新田才許中飯代御用払之過引

残而

老貫三百七拾七匁八分

内

六百八拾八匁九分 高当り

此銀高老万千五百八拾四石八斗三升式合二割八、高百石二付

五匁九分口厘六毛五六八七

六百八拾八匁九分

定口当り

但此銀高定口貳千五百拾九石七斗八升貳合〇割八、百石二付三拾  
一壺八分九厘六七四

元治元年万雜高等

外貳拾五石

蕨谷村二而得能覚兵衛・石崎彦三郎御扶持

高

五拾八石

臼中村銀納所高

一壺万九千七百貳石六斗五升壹合

山田組

外貳拾貳石五升八合

土生新村二而得能覚兵衛御扶持高

拾五石

田中村二而右同断

百拾五石

刀利村銀納高

拾五石

田中村二而得能小四郎御扶持高

一壺万九千六拾貳石四斗四升六合

太美組

一貳万貳百五石三斗九升七合

井口組

外拾五石

和泉村二而石崎市右衛門御扶持高

貳拾石

安居村二而安居寺、領高

一壺万五千貳百拾八石四升壹合

石黒組

外

貳拾五石

浅地村二而荒木平助御扶持高

一壺万八千七百六拾九石六斗五升八合

蟹谷組

外

九拾七石四斗貳升 杉木新町高

一貳万貳千拾四石三斗五合

野尻組

外拾壹石貳斗七升 瑞泉寺等屋敷高

一壺万三千三百六拾三石九斗貳升九合

山見組

一壺万五千五百五拾四石五斗四升七合

外

拾五石

中田村二而木沢源五郎御扶持高

一壺万六千五拾四石六斗壹升六合

般若組

外

拾三石貳斗壹升貳合

小嶋村二而安藤次郎四郎御扶持高

貳拾四石八斗三升五合

新又村二而右同断

六拾壹石四斗五升

戸出村二而川合又右衛門御扶「」

一壺万八千四百拾貳石壹斗七升七合

若林組

外三拾石

金屋本江村二而并鷲ヶ嶋村「」金右衛

門御扶持高

一壺万九千八百九拾石八斗八升七合

糸岡組

一壺万五千八拾五石六斗貳升六合

宮嶋組

外

拾壹石三斗

沢川村田畑兵衛御扶持高

拾五石

五十嵐小豊次御扶持高

一壺万八千九百三拾石八斗九升

五位組

外

拾四石壹斗四合

未進高

一壺万八千四百八石四斗六升五合

国吉組

合貳拾五万六百七拾三石六斗三升五合



一千九百貳拾壹軒

国吉組

一 貳万六千九百四拾八軒

代錢四百十三貫六百四文  
家貳万七千五百七拾六軒

嘉永六年十二月御郡万雜

一 四百五拾三匁九分

新開万雜

一 五拾六貫四百七拾目八分八厘

御郡万雜 高

高百石ニ壹匁九分貳厘七式

内式百拾壹匁八分八厘

打不足

定口百石ニ拾壹匁壹分八厘一三

残而五拾六貫貳百五拾九匁

百石ニ付貳拾貳匁五分之征

安政二年三月

一 四百四拾九匁五分貳厘

新開万雜

一 六拾三匁八分三厘

新開万雜

高百石ニ付壹匁八分貳厘貳毛〇六

定口百石ニ付拾匁七分貳毛八五

一 貳百五拾五貫四百七拾四文

家懸錢

一 三貫貳百三拾七匁六分七厘

御郡万造去後渡り

壹軒ニ付九文ツ、

高百石ニ付壹匁貳分九厘五七〇八六

同七年七月

同年七月

一 六貫九百七拾三匁壹分八厘

高

一 八貫三百七拾四匁八分九厘

中勘万造

高百石ニ三匁三分五厘ノ征

同七年十二月

一 拾八貫百貳拾貳匁壹厘

御郡万造

同十二月

外

六百貳拾七匁貳分四厘

打過

一 五拾三貫七百四拾九匁貳分七厘

御郡万造

一 拾八貫七百四拾九匁八分五厘

高百石ニ付七匁五分之正

一 貳拾三貫九百五拾九文

家懸

一 四貫三百五拾四匁壹分壹厘

家懸

一 五百三拾壹匁壹分九厘

新開万雜

高拾石ニ式分〇五〇二九ノ正<sup>(証)</sup>  
定口拾石ニ壹分式厘一八ノ正<sup>(証)</sup>

同三年七月

一八貫貳百五拾貳分八厘<sup>(証)</sup> 中勘万雜

高貳拾五万八拾五石七升三合二割

三匁三分之正<sup>(証)</sup>

同十二月

一四拾九貫八百六拾七匁貳分五厘 御郡万雜ノ高

右同断ニ割、百石ニ付拾九匁九分四厘〇壹毫五式ノ正<sup>(証)</sup>

一三貫九百目貳分七厘 家懸

一貳百六拾七匁六分三厘 新開万雜

高拾石ニ壹分壹厘一毛八四六

定口拾石ニ五分八厘五毛八九四

同四年七月

一三貫八百三拾五匁五分 去本勘万造

百石ニ壹匁五分三厘三毛六七九ノ正<sup>(証)</sup>

一貳拾九匁七分 新開本勘

高拾石ニ壹厘貳毛四一貳

定口拾石ニ六厘五毛八式一

一七貫貳百五拾三匁五厘 中勘万雜

百石ニ貳匁九分 百三十一匁五分壹厘調達

同十二月

一四拾九貫九匁六分壹厘 御郡万雜

内六十目六分九厘 打過

四拾八貫八百四十一匁七分

百石ニ拾九匁五分三厘貳八五一一五六一

百七匁貳分式厘 御通行方

百石ニ四厘貳毛八七九五六

一三貫八百八拾三匁壹分七厘 家懸

一三百拾匁六分壹厘 新開万雜

高拾石ニ壹分式厘六毛一糸三忽

定口拾石ニ六分七厘九毛三式貳

同五年七月

一四貫貳百九拾壹匁分五厘 本勘万造

百石ニ壹匁七分一厘六式ノ正<sup>(証)</sup>

一七貫八百四拾壹匁貳分七厘 中勘

内九十目六厘 調達

引ノ七貫七百五十匁貳分壹厘

百石二三匁分ノ正<sup>(世)</sup>

同十二月

一六拾貫九百八拾貳匁六分七厘

ノ

内

三貫八百八十三匁分七厘

軒割

十三文ツ、

拾九五

四拾九貫七百六十目九分六厘

中勘万造

百石二十九匁九分ツ、

七貫三百三十八匁五分四厘

調達

百石貳貳匁九分三厘四九四六四

同六年七月

一拾貳貫六百七十六匁四分五厘

本勘

百石二五匁〇六厘九七七

一九貫百拾七匁四厘

中勘

内十四匁四分九厘

調達

百石二三匁六分四厘

文久元年七月

一六貫六百三拾五匁七分壹厘

本勘

百石貳貳匁六分五厘三九三七

一九貫四百廿八匁壹分八厘

中勘

百石二三匁七分七厘〇七六七

同十二月

一八拾三貫八百三十目七分

ノ高

内三貫七十貳匁七分八厘

家懸

貳拾七貫五百五匁七分五厘

十一月中勘万造

但惣高廿五万五千貳石三斗六升壹合ニわり、百石ニ拾壹匁之正<sup>(世)</sup>

七百七十三匁

御通行方宿余内、嘉永二年ノ<sup>(マ)</sup>

四分九厘

安政二年迄之分諸郡打銀ニ之<sup>(マ)</sup>

内御渡銀

四拾六匁四分一厘

右銀高七月ノ利足

引ノ五拾貳貫四百三十貳匁貳分七厘

内四十八匁九分四厘

調達

引ノ百石二拾壹匁〇貳二五六九五

一四百六十一匁三分一厘

随崑講

百石二壹分八厘五毛一六〇貳

一九貫百九十一匁一分貳厘

石灰方

百石二三匁六分八厘九毛一四四八

一五百七十一匁七分

新開

高百石貳貳匁一分六厘三貳四五

定口百石二十一匁九分七厘五八六

同二年七月

一 五貫九百九十九匁貳分壹厘

本勘

百石貳貳匁四分〇七九七九ノ正<sup>(征)</sup>

一 拾一貫八百拾七匁壹分五厘  
百石二四匁七分〇九九五

中勘

十一貫百三十三匁七分壹厘

中勘

百石二四匁四分六厘八八六ノ正<sup>(征)</sup>

同十二月

一百九貫七百廿八匁八分七厘

同十二月

内

一九十四貫五百四十貳匁貳分七厘

家懸

貳貫九百廿五匁一分九厘

軒割

内 三貫四百七十四匁六分一厘

家懸

貳万六千六百廿九軒、壹分一厘ノ正<sup>(征)</sup>

壹分壹厘

九貫貳百四十貳匁一分六厘 御手当

引<sup>レ</sup>九十一貫六拾七匁五分

調達

廿四万九千七百七十五石八升二割

内 三百十匁四分貳厘

調達

百石二三匁七分九毛一

引<sup>レ</sup>九十貫七百五十七匁八分

九十七貫五百五十七匁五分貳厘 御郡万造

廿四万九千四百四十貳石六升五合二割、三十六匁四分貳厘七八四

四七八

引<sup>レ</sup>此内

百五十貳匁七分五厘 調達

一 三貫九百十六匁九分

人夫方

百石二壹匁五分七厘貳一五五貳貳

引<sup>レ</sup>百六貫六百四十六匁九分二厘<sup>(征)</sup>

一 三百八十六匁五分一厘

新開万雜

一 四百四十九匁貳分六厘

新開

高百石二壹匁五分四厘八八一〇貳

高百石二壹匁七分三厘三毛七

定口百石二八匁一分〇貳六五

定口百石二九匁一分一厘六貳三二

同三年七月

万延元年七月

一 六貫四百五拾貳匁九分

本勘

一 七貫三百八十三匁三分壹厘

本勘

百石二貳匁五分九厘〇〇五

百石二貳匁九分五厘三貳一四

一 九貫八百八拾六匁九分四厘 中勘

百石二三匁九分五厘四六一七八

但十一匁五分四厘調達

同十二月

一 三貫百六十四匁一分八厘 御役所

一 三貫三百四十一匁三分式厘 家懸

内 貳貫九百五十六匁八分八厘 十文ツ、

引ノ三百八十四匁四分四厘

一 三貫三百八十九匁六分七厘 相談所

一 口貫七百廿七匁四分一厘 飛脚ノ部

一 六貫百三十六匁三分 御場

一 五貫百七拾三匁五分九厘 御扶持人

一 三貫貳百五拾七匁三分壹厘 御郡

一 三百拾貳匁壹分九厘 御詰米方

一 老貫六百四十一匁四分五厘 馬下方

一 百廿六匁三分九厘 飛騨守様御通行

一 貳貫三百廿五匁壹分貳厘 山田

一 貳貫八百貳匁八分五厘 太美

一 貳貫百九十壹匁三分七厘 井口

一 貳貫九百九十三匁八分一厘 石黒

一 貳貫三百六十八匁一分八厘 かんた

一 貳貫貳百四十七匁七分六厘 野尻

一 貳貫貳百四十貳匁七分七厘 山見

一 貳貫五百十貳匁七分五厘 庄下

一 貳貫五百八十五匁六分五厘 般若

一 貳貫五百六十貳匁四分貳厘 若林

一 貳貫貳百三十貳匁六分五厘 糸岡

一 貳貫三百十八匁貳厘 宮嶋

一 貳貫六百廿三匁五分三厘 五位

一 貳貫三百八十一匁五分壹厘 国吉

廿三口

ノ五拾九貫四百九十四匁五厘 家懸

内 貳貫九百五十六匁八分八厘 家懸

引ノ五十六貫五百三十七匁壹分七厘 御刑法方雜用中勘銀

外 四貫七百九拾三匁四分七厘 御刑法方雜用中勘銀

ノ 六十一貫三百三十目六分四厘

但此銀惣高廿五万四十六石三九七九二わり、高百石二付

廿四匁五分式厘七七四ノ正

一 八貫六百八拾貳匁貳分五厘 外国方

右高ニわり、百石二付三匁四分七厘貳貳六ノ正

一 貳百九十三匁壹分三厘 新開方

内 百四十六匁五分六厘 高割

但新開高老万式千三百七十石四斗式升八合二割、百石二付老  
勿老分八厘<sup>(証)</sup>

百四十六匁五分七厘 定口利  
但定口式千式百九十三石六斗八升九合二わり、百石二付六匁  
三分九厘

元治元年七月本勘万雜

- 一 三百八拾六匁三分七厘 御役所
- 一 式百八拾三匁老分 同詰番所
- 一 老貫百六拾式匁四分六厘 相談所
- 一 五貫九百七拾五匁七分五厘 御郡諸入用
- 一 拾三匁五分老厘 御場向
- 一 七百四拾七匁五分九厘 山田
- 一 老貫拾六匁七分三厘 太美
- 一 六貫拾三匁四分九厘 井口
- 一 九百七拾九匁八分八厘 石黒
- 一 八百四拾六匁四厘 蟹谷
- 一 七百五匁六分 野尻
- 一 六百七拾九匁七分老厘 山見
- 一 六百式拾目七分老厘 庄下
- 一 六百七拾式匁八分九厘 般若
- 一 七百七拾八匁四分式厘 若林
- 一 八百五拾七匁式分六厘 糸岡
- 一 九百拾七匁七分六厘 宮嶋

一 七百八拾目老分老厘 五位  
 一 七百五拾七匁老分八厘 国吉  
 一 七匁九分四厘 五ヶ山  
 銀合拾八貫五百六拾五匁老分式厘  
 此銀惣高式拾四万九千七百七拾五石八升二割八、百石二付七匁四分五厘〇六三老

同中勘万雜

- 一 老貫式百拾九匁九分老厘 御役所
- 一 老貫三百三拾式匁六分六厘 詰番所
- 一 式貫四拾四匁四分老厘 相談所
- 一 式貫百八拾目老分五厘 御郡
- 一 四貫式百八拾七匁〇七厘 御場向

銀

拾老貫五拾五匁式分  
 内拾八匁三分式厘 征合二付調達  
 残而

拾老貫三拾六匁八分八厘  
 此銀惣高式拾四万九千七百七拾五石八升二割、百石二付四匁四分  
 式厘九三六九  
 正二口合<sup>(証)</sup>

拾老匁八分八厘 七月十一日取立  
 覚

是迄朝立之分

一八百文之所

田中 和泉

埴生 四日町

老貫文宛御頼申上候

同

一老貫文之所

杉木 戸出 内嶋 野尻

三清 八塚 苗嶋

老貫貳百文宛御頼申上候

同

一老貫貳百文之所

中田 権正寺

老貫四百文宛御頼申上候

右去年十二月方分御願可被下候様ニ御頼申上候

丑六月

飛脚

惣右衛門

番代

市兵衛様

右之通去十二月方之飛脚賃錢増方之義願出申二付、奥書仕差上申候間、願之通御聞届御座候様仕度奉願上候、以上

番代

市兵衛

御扶持人衆中

付札

本文飛脚賃増方之義、当一作願之通承届候事

丑六月

御扶持人

組才許召仕走給銀百四拾目之所、当年方貳百目相渡度、御扶持人方走貳拾目之处、四拾目相渡度、無組御扶持人方之分三拾五匁之处、五拾五文相渡度義及御達置候、右之趣御聞届被下候様、加州方江御才足申上候处、御聞届二而、其段新川御奉行所江被仰遣候旨被仰候、尚又右御奉行所も御出府二付、御伺申上候处、別ニ御詮義之筋無之候間、願之通相渡可申旨被仰渡候二付、為御承知申進候間、此状留方御返可被成候、以上

子十二月廿六日

石崎市右衛門

南善左衛門

諸郡

御扶持人中様等

慶応元年乙丑七月中勘万造并去本勘

本勘

一七百五拾九匁八分六厘

御郡所

一九拾五匁四分貳厘

詰番所

一老貫三百五拾四匁三分老厘

相談所

一貳貫四百拾八匁八分八厘

御郡

一五百七拾四匁老分六厘

御場

一四百拾老匁九分老厘

山田

一五百五拾四匁三分三厘

太美

一四百三拾五匁四分七厘

井口

一五百七拾九匁九分貳厘

石黒

一四百八拾六匁八分

蟹谷

一三四拾目九分八厘 野尻

一四〇廿九分七厘 山見

一三〇拾九分九厘 庄下

一三〇六分七厘 般若

一四〇八分三厘四分八厘 若林

一四〇七分九厘四分八厘 糸岡

一四〇五分三厘七分六厘 宮嶋

一四〇八分七厘五分式厘 五位

一四〇六分七厘 国吉

一〇六分六厘八厘九分 御手当方

一〇六分六厘六厘六厘四分五厘

此銀惣高廿五万六百七拾三石六斗三升五合二割、高百石二付五  
匁五厘壹毛三六八九ノ征

中勘

一〇六分八厘六厘九厘一分 御役所

一〇六分六厘七厘六厘三分六厘 詰番所

一〇五分六厘七厘五分七厘 相談所

一〇六分〇厘四厘八厘 御郡

一〇五分六厘五厘五厘四分式厘 御場

一〇六分六厘七厘四分五厘

(征) 正合二付調達

引一〇六分六厘五厘七厘三分三厘

此銀高惣高二割

(征) 〇百石二付八匁三厘八毛六三壹壹ノ正  
正合拾三厘九厘ノ正 七月十日取立

当年ハ御〇万造取立方等、昨年方ハ日限引揚申度、〇是迄組と方万  
造ニ可相立品と決算寄合中追と御書出候処、何ケ相混義も御座候間、  
当正月方十月迄之飛脚賃并其外御郡万造へ可相立品と、当年別冊案  
文之通御取揃、来月十五日切無間違杉木ニ而金右衛門等方へ御差出  
可被成候、此状寄合中御廻、留方御返可被成候、以上

丑十月〇八日 在府 荒木平助

〇府 安藤次郎四郎

野尻五郎右衛門

組と

御才許中様

追而御才許組之内、山廻中手前ニ而御林方等二付、御郡へ付〇飛脚  
賃等有之候ハ、是又御取寄、前段日限一集ニ御差出可被成候、以  
上

横折長帳ニして

御郡向飛脚

何組

何月何日

一何拾何匁

何右衛門

但何方何之義二付、御郡御奉行所御紙面与坎為持遣ス

但何方、何と之義与坎、是迄之通

但何方行——暮増并蠟燭代与坎

但——

片道(而已)已而

外——  
去十二月方当十二月迄何ヶ月利足

但——蠟燭代共

何貫何百文

但式人分

何右衛門

何兵衛

二調可申事

但——

正月何日

何拾何貫文

何何百何拾目

但本勘万造江後渡り飛脚賃書出之分も同様之調理ニして、  
之所一ヶ所ニ而利足「」之事

右書上申口

何ノ何月

才許名

御郡万造方

主付衆中

横折長帳ニして

新開方飛脚賃

何組

去十二月方

一何百何「」文

何右衛門

飛驒守様

万造方

右書出之申候、以上

才許組

稠松様 御通行方飛脚賃

何組

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

但

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

才許名

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

右之外二時と相替品二付飛脚有之、当一

書出可申事

但調方御郡飛脚賃同様之事

右

但

但

但

御手当方飛脚賃

何組

銃卒方飛脚賃

何組

但此分「郡」飛脚同様之事

右

何ノ何月

但此分調方御郡向飛脚同様之事

右

惣代等日懸書出帳

何組

万雜調理方ニ付、惣代何村何右衛門等日懸

一何拾何人

何月何日方何日迄居泊候分

代

但一泊五匁五分宛之図

一

何月何日迄其日帰り之分

代

但老匁三分宛之図

代

何々之義ニ付何村へ遣候惣代何村何兵衛

一

但其日帰り之分ニ付一日三匁宛

一

但居泊り候分ニ付、宿料共老日五匁五分ツ、

一

何々之義ニ付御扶持人中等方申談候繩張人等、何村何右衛

門日懸

一

何月何日方何日迄

代

但先方ニ而致喰候ニ付老日四匁五分ツ、

一何匁何分

紙代与坎

代

但自飯米ニ而繪図相調候ニ付、一日三匁宛之

図

何々之義ニ付金沢へ惣代何村何右衛門

一

代

但一日六匁ツ、

一

代

一

右万造□□日懸り等取揃書出申候、已上

何ノ何月

一

一

一何百目

一何拾目

一何百目

一何百目

一何百目

一何百目

一何百目

一何百目

一何百目

一何百目

一何百目

一何百目

一何百目

一何百目

一何百目

一何百目

一何百目

一何百目

一何百目

御郡向足銀

何組

手代給銀

筆・墨料

料紙代

走り給銀

何方舟賃料銀

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

前何之品書出帳

何組

才許名

諸郡万造方  
主付衆中

一 何拾何匁

非常ろうそく何拾丁代

一

組方御用書物入当用箱、并真田紐

一

代与款

一

高提灯并弓張提灯張替与款

一

火消水手桶輸入替与款

但此

右書出之申候、已上

才許名

被成候、已上

御扶持人 印

丑十二月

書判

組と

御才許中様

覚

一六匁

惣代役人等金沢へ罷出候日懸宿料共

外二

宿料見込増

壹匁

惣代役人日懸居泊候分、宿料共

一五匁

外二

壹匁

右同断

外二

右同断

但其日帰之分ハ去年通之事

万雜調理方惣代居泊候分、宿料共

一五匁五分

外二

右同断

右同断

外二

右同断

五匁

右同断

六匁

右同断

六匁

右同断

但其日帰り之分ハ去年通り之事

一三匁

御役所等調筆人

外二

壹匁増

四匁

右米価等格別高直ニ付、歎之趣無抛相聞江候ニ付、当分前段朱書之

通り致増方可相渡、尤右之外去年取極通ニ御座候間、左様御心得可

被成候、已上

※ 右項目中の傍線は朱書。

元治元年十二月

万雜方惣代

一百八拾四匁

山田

一百拾五匁五分

太美

一匁百七匁

井口

一百廿式匁五分

石黒

一八拾三匁

蟹谷

一百拾九匁

野尻

一匁百五拾七匁

山見

一匁百七匁五分

庄下

一百九十六匁  
 一百七十八匁九分  
 一百五十五匁七分五厘  
 一式百三匁五分  
 一式百四十三匁五分  
 一百五十一匁五分  
 一三拾五匁

般若  
 若林  
 糸岡  
 宮嶋  
 五位  
 国吉  
 御郡万造

慶応元年七月本勘

万雑方惣代

一五拾六匁  
 一式百五匁  
 一百拾七匁式分五厘  
 一式百三匁七分五厘  
 一百五十匁式分五厘  
 一百九十匁式分五分  
 一百六十八匁  
 一百四十五匁  
 一百五十五匁六分  
 一七十三匁五分  
 一百三十九匁  
 一九十八匁  
 一百六十九匁

御郡万雑  
 山田  
 大美  
 井口  
 石黒  
 蟹谷  
 野尻  
 山見  
 山下  
 般若  
 若林  
 糸岡  
 宮嶋

一百四十匁五分  
 一百八十匁

五位  
 国吉

同年十二月

万造方惣代

一百三十八匁  
 一式百三十七匁  
 一百三十匁七分五厘  
 一式百五十三匁  
 一百廿式匁五分  
 一式百廿五匁  
 一百九十匁式匁  
 一式百拾匁  
 一式百五十八匁五分  
 一式百七匁五分  
 一百六十八匁  
 一百六十九匁四分五厘  
 一式百十五匁五分  
 一式百五十匁式匁  
 一百五十五匁五分

御郡  
 山田  
 大美  
 井口  
 石黒  
 蟹谷  
 野尻  
 山見  
 山下  
 般若  
 若林  
 糸岡  
 宮嶋  
 五位  
 国吉

慶応元年十二月

一五貫三百六拾五匁七分七厘 御役所  
一四〇七拾七匁九分 家懸

二〇〇五貫八百四拾三匁六分七厘

内五貫六百五拾五匁七分貳厘 老軒二付廿一文ツ、

残而百八拾七匁九分五厘

一七貫九百四匁三分九厘 相談所

一拾八貫六百五拾四匁六分六厘 御郡

一八貫七百五拾六匁壹分八厘 御場向

内九拾目五分 木綿等改印代、御産物方方御渡

二付引

残而

八貫六百六拾五匁六分八厘

一九貫三百三拾七匁九分九厘 御扶持人

一貳百六拾七匁 御詰米方

一三貫九百廿八匁七分四厘 山田組

一四貫五百九匁八分壹厘 太美組

一四貫五拾八匁九分八厘 井口組

一五貫五百八拾六匁貳分 石黒組

一四貫五百廿四匁八分 蟹谷組

一三貫七百九拾四匁貳分六厘 野尻組

一三貫七百拾八匁貳分壹厘 山見組

一四貫百六拾四匁六分八厘 庄下組

一四貫百八拾五匁貳分五厘 般若組

一四貫四百五拾五匁五分 若林組

一四貫百三十四匁六分 糸岡組

一四貫貳百四十壹匁五分貳厘 宮嶋組

一五貫六百八十貳匁七分三厘 五位組

一三貫八百拾匁七厘 国吉組

一十八貫六百三拾貳匁九分八厘 御手当方

一老貫五百目 馬下方

一四貫九拾貳匁八分 飛脚

惣銀 〆百三拾五貫六百九十三匁貳分五厘

内 五貫六百五十五匁七分貳厘 軒割老軒二付貳分壹厘、銀高引

当春初寄合入用、当七月中勘万造

二打立置候得共、身当二致候二付

立返

貼紙 五貫六百

貼紙 一貳百九十七匁

拾老匁 紅滿地判木代、当七月十一日本勘  
万造二打立置候得共、井波町方取

立候二付立返

拾八貫六百三十匁九分八厘 御手当方

但此銀貳拾五万七百三十五石四斗七升三合二割、高百石二付

七匁四分三厘老毛三式九四ノ正

百拾老貫九拾六匁五分六厘 御郡万造

但此銀右同断、高百石二付

四拾四匁三分〇八毛式七四

右二口

百廿九貫七百廿九匁五分四厘

内九拾九匁三分

征合ニ付本勘万造取立候迄調達

残而

百廿九貫六百三拾目式分四厘

但御郡万造征四拾四匁式分六厘八毛六七〇六

御手当方征七匁四分三厘一毛三式九四

合高百石二付五拾壹匁七分<sup>之</sup>征

一八百七拾六匁四分三厘

新開方雜入用

内

去十二月万造<sup>ノ</sup>銀壹貫三十七匁七分八厘之

三百八十七匁

所、老貫三百七十七匁八分取立申二付、過

六分式厘

銀三百四十目式分之分、去十二月<sup>ノ</sup>当十二

月迄閏月共十四月利足銀共割返之分引

引<sup>ノ</sup>四百八十八匁八分壹厘

内式百四十四匁四分壹厘

新開高割

但新開高老万四千四百五十四石九斗四升九合二割、高百石二付

式匁老分三厘三毛六六<sup>ノ</sup>正<sup>(註)</sup>

式百四拾四匁四分

同定口割

但定口式千百三十式石老斗老升六合ニわり、定口百石二付拾壹

匁四分六厘式毛八<sup>ノ</sup>正<sup>(註)</sup>

外式百目

但老入二百目充御増奉願候

一式百七拾目

同御門番人老入御給銀

外百目

但右同断

一三百六拾目

御出張所御門番老入御給銀

外百目

但右同断

一三百五拾四匁

詰番所小使兩人老日老匁ツ、

外式百目

但右同断

右杉木御郡所小使等諸色高貴ニ而難義仕、当年御給銀御増方願出申

二付、右書付御達申上置候通ニ御座候、依而私共示合候処、御縮所

番人<sup>ノ</sup>定給銀之外、百目相増御渡候義、当八月御聞届御座候間、前

段小使等之義茂当年之処老入江百目宛御郡万雜ニ而相渡申度奉存候、

此段御聞届被下候様奉願上候、以上

丑十二月

石崎市右衛門等七人

金屋本江村

金右衛門等三人

大野織之助殿等四人

竟

是迄所拾式匁

朝立

杉木行・宮丸行

拾七匁

戸出行・野尻行

苗嶋行・三清行

内嶋行

竟

一五百目

御役所小使兩人御給銀

是迄所拾匁

朝立

拾五匁

是迄拾壹匁所

朝立拾六匁

是迄所拾四匁

朝立

壹貫九百文

中田行・權正寺行

右御用飛脚賃、是迄之賃錢ニ而相勤來候得共、諸色高直ニ相成、指懸候節飛脚ニ參り候者無御座候、引足仕來候間、去暮之分方右之通御増被下候様幾重ニも奉願上候、以上

寅

六月

番代

市兵衛殿

飛脚

宗右衛門

金沢方之飛脚賃、去々年増賃詮義致候上之事ニ候得共、所全(途)只今迄之賃錢ニ而者難相勤、飛脚宗右衛門迷惑いたし候ニ付、春以來之分今度之書出方別紙之通増錢聞届吳候様、番代市兵衛申聞、願之趣無拋相聞申候間、其趣聞届可申哉、否御談、詰番迄御申越御座候様仕度、右為御相談如此御座候、以上

寅

六月十二日

荒木平助

得能小四郎

五十嵐小豊次

田中行・和泉行  
四日町行・埴生行

金屋本江行・大西行

石崎市右衛門様 安藤次郎四郎様  
本江金右衛門様 野尻五郎右衛門様  
四日町岳平次様

右御紙面承知仕、飛脚惣右衛門書出致披見候、本文増錢願之義御申越之通聞届可然奉存候間、其趣詰番中様方市兵衛へ御談可被成候、以上、仍而別紙御返申候間、御郡万造方一件へ御仕抹置可被成候、奥繼を以右○御報如此御座候、以上

寅

六月十四日

石崎 川合 石崎  
安藤 本江 野尻  
四日町

荒木 得能 五十嵐 宛

金沢ニ而旅籠一泊、此節六百五十文相成候処、金沢行飛脚之賃錢四百文位之旅籠之節之取極ニ而、諸組共飛脚共泊候節、宿料払方難義無拋候間、泊之分都而往來之雜費共、三百文宛当春之分増賃可相渡候事

但日帰ニ致候分、埴生等ニ有之候間、貳百文増賃可相渡事、右三百文之増ニ不及事

一杉木新町方之飛脚、金沢行金銀持參之分、常飛脚同様之賃錢ニ成

来候得共、小割札□双方ニ而改候節隙取、及迷惑候段相難、此段  
 八外組と之飛脚も同様□候間、常飛脚之賃錢ニ諸組共老割半増可  
 相渡之分、前段同様春来之分同様之事

一右ニ而難弁旨強而申聞之趣有之ヶ所御座「  
 」、其所ニ稼多有之  
 故之義ニ付、夫ニ方詮義之筋も可有之候哉之事

寅  
 三月

組と御才許中様

- 一 式百四拾貳匁
- 八拾四匁
- 一 百五拾六匁五分
- 一 式百五拾九匁
- 一 式百貳拾九匁
- 一 式百拾三匁式分五厘
- 一 式百四拾三匁
- 一 式百四拾六匁
- 一 百八拾老匁五分
- 一 百三拾貳匁

山田 養谷村三郎兵エ  
 大西村伝兵エ  
 吉江中村十兵エ  
 荒木村權治郎  
 古軸屋村小右エ門  
 苗嶋村彦四郎  
 西勝寺村藤左エ門  
 梅ヶ島村孫市  
 浅地村久右エ門  
 平櫻村吉左エ門  
 荒高屋村吉十郎  
 野尻村嘉■右エ門  
 繩之内村□兵エ  
 高堀村与右エ門  
 中野村佐太郎  
 頼成村四右エ門  
 常國村吉兵エ  
 下麻生村又吉  
 光明寺村義右エ門

寄合  
 御扶持人印  
 万造方印  
 主付印

- 一 百九拾目五分
- 一 百五匁
- 一 三百三拾六匁五分
- 一 式百拾匁
- 一 式百三拾老匁
- 一 百四匁五分
- 若林 千代村太郎左エ門  
 下後亟村宇右エ門  
 狐島村藤四郎  
 後谷村六兵エ  
 櫻早村兵吉  
 谷坪野村長右エ門  
 西川原島村松兵エ  
 高島村久右エ門  
 細池村小右エ門  
 高田島村宗兵エ  
 本保村彦兵エ  
 頼成村弥兵エ
- 宮嶋
- 五位
- 国吉
- 御郡
- 御役所
- 詰番所
- 相談所
- 御郡
- 山田
- 太美
- 井口
- 石黒
- かんた

※ 右項目中の抹消・行間書込・小字の人名は朱書。また、人名は  
 村名が肩書の形で記されているが、右のように表記した。

慶応二年七月本勘

一 四百七十一 匁六分一厘 野尻

一 四百四十九 匁九分九厘 山見

一 三百七十四 匁六分六厘 庄下

一 五百十六 匁三分八厘 般若

一 五百〇十 目八分二厘 若林

一 四百七十九 匁七分貳厘 糸岡

一 五百七十 匁貳分七厘 宮嶋

一 五百廿一 匁八分五厘 五位

一 三百五十 目壹分三厘 国吉

一 壹貫三百八 匁一分一厘 御手当

一 十五貫七百七十四 匁六分四厘 御手当

内 三百目 亥十二月杉木手代三人給銀打過

廿九 匁九分 子十二月人夫方二付御郡所口番代御渡銀

引 拾五貫〇口四十四 匁七分四厘

〇此銀惣高廿五万四千五百拾壹石貳斗壹升九合二割、  
百石二付六 匁六厘八毛三九 匁〇征

同月中勘万雜

一 壹貫六百九十一 匁四分四厘 御役所

一 貳貫貳 匁三分六厘 詰番所

一 四貫八百廿五 匁三分八厘 相談所

一 貳貫九百三十七 匁 御郡

一 六貫三百三十四 匁壹分六厘 御場向

一 拾七貫七百九十 目三分四厘

内 廿壹 匁三分七厘 征合拾拾二付調達

残而

拾七貫〇百六十八 匁九分七厘

但此銀惣高廿五万四千五百拾壹石貳斗壹升九合二割、

百石二付六 匁九分八厘一毛六〇八ノ正

正二口 拾三 匁五厘

正二口 拾三 匁五厘

覚

銀高七貫七百八 匁四分六厘之内

一 三貫八百五拾四 匁〇分三厘 去々年罷出候人夫道中所々立湯茶

代惣入用銀之内

〇口高〇口六万五千貳百六石五斗七升貳合余二割、石二付征三

毛〇四六三

内 七百七拾七 匁壹分九厘 砺波郡

外 御郡畧

右銀之内

一 三貫八百五拾四 匁貳分三厘 右同断

但惣家数拾五万七千三百七拾四軒二割、壹軒二付征貳厘四毛四

九

内 六百九拾壹 匁三分八厘 砺波郡

外 御郡畧

右通日用格人夫御用之所、御用高相揃不申二付、御手当人夫々口口

可指出旨被仰渡、指懸居候事故、石川・河北近在并宿々方金沢迄指

但無謂■を以棄置候分

出候所、殖生村宗市等手合通日用格人夫相揃、御手当人夫御用無之事二相成申候二付、右人夫金沢路中賃銀等御渡方願上候所、飯代迄御渡二相成候得共、賃銀御渡難被為成段と被仰渡候、右人夫ハ諸郡割合を以可指出筈二候得共、前条之通差懸候事故、石川・河北方指出候義二候二付、今度御相談之通諸郡割二致、且一昨年越前路等へ罷越候御手当人夫道中茶代等不時入用銀御渡難相成分共、惣様引統右之通割符いたし候間、当日中無間違人夫しらへ方手代中迄御指出可被成候、万一遅申義有之候而ハ、上納方指支申候間、御振替被成□成□差出可被成候、此状急と御廻、從留御返「」

文久二年閏八月  
上書  
御代官雜用取極

寅七月八日  
荒木平助 南善左衛門  
瀨尾孫左衛門 崑多市十郎

御代官向飛脚賃  
一川下番繰帳為持遣  
一御詰米調理書上  
一書替御代官向切込  
一越米書上

諸郡

御扶持人中様

一御通帳切込御印受二福町江遣  
□御通帳□□御印請二同断  
一留封之義□□□等

一八貫四百八匁八厘

寅七月万造方調達銀ノ高

一升廻書物御蔵元江遣  
一升廻二御代官出役等之儀

内貳貫六百目

矢木村宗四郎方調達

一御御預割  
一惣預春秋夫銀

老貫四百六拾八匁  
五分七厘

同人方

同断  
一惣御預押切帳等

七百六匁八分九厘

同人方

御代官身当

老貫目

頼成村弥兵衛方調達

一諸代官増減目録書上

貳貫目

仕法銀方去暮調達之分居成

同断

百貳拾貳匁九分貳厘

去十二月方当七月迄右銀高利足百六十目之内、通調達三拾七匁八厘引残り

一御代官夫銀取立為持遣ス

仁吉郎・弥兵衛手合二而調達

同断

一 御代官割加為持遣ス

御藏下

一 別除糶積替

一 在糶損俵しらへ等

一 古糶摺立

一 糶并返上米御代官向等

一 積所支之義ニ付借藏願、并馬下願、并納方日限等御代官中間日限  
触

御郡

一 川下御役人出役等之儀

一 升廻御役人宿等

一 御藏渡方之節、分役江之紙面等

一 今石動与力渡り方廻文

一 上り知廻文

一 上り知御代官分組割替ニ付廻文

一 御知行出触

一 有米書上

右之通去丑十一月取極有之候得共、尚又相洩候品と今度取極、左ニ  
相記

一 夫喰御貸米并変地御償米等御印

一 同切込方

御郡

御代官

一 九拾歳者渡り御印

御郡

但是迄ハ御米受人向ニ候得共、詮義之上如此

一 同切込方

御代官

一 御代官帳惣人との分写組と江相廻候分

御郡

一 惣御預御代官分同断

同

一 別惣御預御代官帳并写相廻候分

同

一 別除米通帳等

同

一 川下御米上川・下川ニ而引統番繰書上

同

一 吉久詰日限廻文

御代官

一 升廻方ニ付自身出役可致処、外御用

同

一 二而差支、外ニ頼合ニ遣候紙面

同

一 中勘米書上

同

一 納方ニ付懸番状

但所方江相渡為持出、手遠之所直ニ可遣分ハ、御代官身出ニ可

致、且又糶納返上米ハ無口米之品故藏下懸

一 御代官帳并割加帳

身当り

一 上り知夫銀為引合方

上り知向

一 御代官分本勘米之内書出間違之義

身当

一 升廻御役人等御藏所江被指尙候義、所方へ申渡方

一 御米渡方ニ付所方江申渡方

此二口宗守・池尻・三日市・六家ハ藏下、其外所方向

惣御預御代官向飛脚賃

一金沢行 三月夫銀上納飛脚賃半高

一同 九月夫銀同断

一同 正月御算用帳同断

一 夫銀切手并皆済状加判受飛脚賃

右惣御預御代官向飛脚賃書出、組々区々ニ相成居候ニ付、以来右之  
通取極、惣御預口米代之内ニ而半高立渡可申、此外飛脚賃ハ納人ニ  
而相弁可申事

御米積替賃之支

一 御蔵建替等ニ付積替候分ハ御渡方可願上事

一 何与坎無抛積替可致分ハ蔵下懸

一 御蔵内ニ而不時つへ崩、積直候分同断

一 納中積替之分

御糶積替賃之事

一 別困江積替之分ハ、御渡方可願上事

附り御蔵所ニ寄、御渡銀ニ而積替人足賃行届不申候ハ、精誠

蔵下才許ニ而詮義之上蔵下方引足可申事

一同 困江積替之分ハ蔵下懸

一 御封下ニ不相成前ニ而茂、無抛積替之分ハ蔵下懸

附り御代官得手ニ而積替之分ハ身当

一 古米渡方ニ付配出等人足賃ハ米請人方可取立事ニ候得共、右古米

之上配ニ外御米等有之、取除方人足賃

一 御米留封方升廻迄御蔵主付分役并主付手代宿余荷

一 川下御役人御出役ニ付、川下日限伺方并川下中押受組才許・手代

御蔵所江罷出候節之宿余荷

一 留封ニ付出役之節、宿余荷所方ニ而相弁可申事

但城端之義ハ在来通之支

一 升廻并御米改ニ付自身出役宿料等

一 俵拵勢子役中出役之節、組才許・手代出候宿料等

一 御米渡方之節、御通帳預手代出役飯代

一 川下方御米上乘手代吉久ニ而飯料等

一 前段御代官向之内、両手合共惣御代官江抱候品(抱)と御郡惣御代官迄

ニ付候品与有之、決算寄合之節相調理、振分可申、且地蔵割・上

川六ヶ所割・身出ニ可致品とも可有之、印シ付ニ而相しらへ可申

事

一 升廻入用之趣ニ而御代官宿共書出候共、内輪得与披見之上可相渡、

無謂任書出相渡申間敷事

右之通取極候事

壬

戊八月

杉木ニ而御米決算寄合

御代官

何ノ誰



外

三百八拾五文 当年五割増

〆老貫百五拾五文

外七百元 宿料

合老貫八百五拾五文

一貳百貳拾五文 乃至杉木方田中行右同断

外 百拾文 当年五割増

飛脚書出〆之品 〆三百三拾文

〆

内 金沢行宿料

残而

外 当年五割増

右金沢行宿料

三口合

右組と当年飛脚賃増方之義遂詮義、右之通五割増之事ニ取極候ニ付、此間御書出之飛脚帳返進申候間、別冊之表五割増ニ当ル分惣〆之所ニ而外書ニ被成、御差出可被成候、且未夕飛脚帳御差出無之組とも、今程ニ而ハ調濟ニ相成候ニ而可有之、是又右同様ニ可被成候、右ハ決算寄合所取しらへ置申度候間、来月二日迄ニ無間違五郎右衛門方へ御差越可被成候、此状等先と急速御廻達、留方五郎右衛門方へ御返可被成候、以上

寅

十一月廿六日

荒木平助

等主付五人

組と

御才許中様

杉木

詰番中様

追而分役中江ハ組御才許方夫と御演述可被成候、以上

覚

一五] 外 金沢行惣代役人日懸一日分

外 六] 外 正月方九月九日迄一泊宿料

〆 拾老匁五分

一五] 外 同断

外 七] 外 九月十日方十一月九日迄同断

〆 拾貳匁五分

一五] 外 同断

外 九] 外 十一月十日方同断

〆 拾四匁

一八] 外 惣代役人居泊候分、正月方八月中迄一日宿料共

一九] 外 九月朔日方同断

一五] 外 惣代役人日懸、其日帰之分

一六] 外 御役所等調筆人一日日懸

一三] 外 加役等先賄之分

一六) 万雑方役人一日と懸

但是迄ハ居泊候分并日帰之分与両様ニいたし、日懸相渡候得共、

今度相改、右之通取極申候、併遠方ニ而其日帰ニ而も不相成御

組と、別段御申聞御座候得ハ、夫と詮義可仕事

一七) 繩張人一日料銀〔朱書〕

一五) 竿取人同断〔都而七刃〕

右惣代役人日懸り等は迄之分ニ而ハ行足不申、迷惑いたし候由ニ付、

右之通相改申候間、左様御承知可被成候、此状寄合中御廻可被成候、

以上

寅

十一月九日

万造主付印

印

組と

御才許中様

※ 右項目中の傍線は朱書。

是迄村役人を以申分等有之ヶ所江遣候加役人料銀之義、其村方方為

差出候分与、御郡万雑ニ而相渡候分与之規則相立兼候儀有之ニ付、

以来ハ其村方難渋ニ付遣加役人之料ハ、是迄之通御郡万造ニ而相渡

可申候、又他支配懸或ハ他村与之申分ニ付差遣候分も同様料銀可相

渡候得共、其村役人不行届故、無是非他村方差遣代肝煎之納得方不

相揃、又ハ万雑方等之申分杯ニ而遣候加役人料銀ハ其村方為指出可

申義ニ候間、右之趣兼而組とニおみて承知可有之候之事

寅

三月七日

組と

御用所

御扶持人等

御内遣小遣長四郎日懸、是迄砺波・射水ニ而老日老刃五分ツ、御渡

ニ相成来申候処、物価格別高直之折柄難渋罷在、御増方之義願聞申

候ニ付、外御郡ニも承り合候処、口郡・奥郡・新川小遣清八義ハ右

三郡ニ而九百目余御渡ニ相成居、石川郡ハ老貫百五拾目、河北郡ハ

老貫八拾目御渡ニ相成居候由ニ御座候間、長四郎義も砺波・射水ニ

而老日三刃ツ、御渡被下候得ハ、年分老貫八拾目ニ相成、老郡五百

四拾目宛ニ相成申候、右様御渡被下候得ハ、外御郡与も振レ不申、

可宜与奉存候ニ付、此段私共示談之上御願申上候間、御聞届被下候

様奉願上候、已上

寅

六月

石崎市右衛門等八人

南善左衛門等四人

御郡

御奉行所

御改作

御奉行所

本文日懸料老日式刃五分ツ、相渡候義ニ承届候之事

寅六月

御郡奉行印

改作奉行印

諸役人御用宿飯代壹飯二付壹匁五分宛御郡万難を以余荷方、嘉永年御取極被仰渡候処、近来諸色も高直二付、去年六月御願申上、五分御増、都合式匁宛御渡方御聞届御座候処、当春以来諸品高直二相成、右余内方二而八御用宿相勤兼候二付、増余荷御渡方願聞申二付、詮義仕候所、相違無御座二付、当年方壹匁御増、以来壹飯三匁宛御渡之義御聞届御座候様仕度候

右共詮義之趣御達申上候間、御差図被下候様奉願候、已上

寅十一月 北村与右衛門等八人

御郡

御奉行所

御改作

御奉行所

御付札

本文余荷増方之義、願之通承届候事

寅十一月十六日

御郡奉行印四人

改作奉行印式人

御郡之繩張人并竿取人内檢地等之節、召仕候料銀繩張人一日三匁方式匁五分迄、竿取人式匁宛御郡之方相渡来申候処、諸色高直二も相成、是迄之料銀二而八迷惑仕候旨相敷申二付、当年方七割増を以料銀相渡申度奉存候間、此段御聞届被下候様、私共示合御達申上候、以上

寅

六月

諸郡

首座連名

御改作

御奉行所

御付札

本文承届候事

寅六月

改作奉行印

印

覚書之内抜書

万造方惣代日懸

去年迄六匁

一居泊候分一日宿料共

是迄三匁五分

一其日帰之分一日料銀

右二口惣代之義ハ、居泊共其日帰之階級難相立義も御座候義、夜中江懸仕事も仕候故、当年方平均百六匁ツ、相渡可然、乍去杉木へ罷出候分ハ居泊候二付、宿料共乃至九匁与坎相渡可然哉

〔朱書〕

「此口五位惣代ハ其日帰ニハ致得不申、階級相立居候間、日懸料銀

・宿料共一日九匁御立渡可被成候、尤右ニ類シ階級相立候分ハ、右同様ニ御心得可被成候、階級立不申分ハ本文之通ニ而可然奉存候」

上書 慶応元年七月

桐木村西領小矢部川土橋図帳

御附札

砺波郡

本文之通承届候事

石黒組

丑十月 御郡奉行

改作奉行

〆式貫六百五十目

外百五十目 前段桐木村方可取立銀高

合式貫八百目

内九百五拾七匁五分 前段土橋出来雜用

残而老貫八百四拾式匁五分

但此銀高五ヶ年二割、老ヶ年三百六拾八匁五分ニ相成申候、此銀高を以右橋年限中懸替人足賃銀、右受負人渡ニ相成申候

右桐木村西領小矢部川土橋之義、先年方組万雜を以受負申渡置候得共、組万雜御差止後、年々御郡万雜方相渡来候処、追々諸色高直ニ相成、近年三拾目石黒組桐木村等方茂利足銀仕、去年之所都合三百三拾目相渡、一作渡毎ニ而相弁来申候、去年ハ雪積不申、右ニ而相弁候得共、何分川舟縁二人家無之ゆへ、雪降積候得ハ、不絶越渡方ニ罷出候義も致兼、尤往来仕候人茂少ク御座候所、請負渡銀之外潤色茂無御座、去々年迄之通冬中土橋懸渡、四月方九月迄ハ舟渡ニ不仕而ハ何レ茂難義仕候旨歎聞、且ハ御用飛脚之者九ヶ所相通不申候間、廻り道仕候得ハ、夫程増賃銀相渡候上、御用方も差支申ニ付、去々年迄之通土橋出来方等精誠詮義仕候処、前段書上候通ニ御座候、右銀高五ヶ年之間御郡万造之内方渡方仕候義、御聞届被下候様仕度奉願上候、以上

慶応元年十月

石崎市右衛門等七人

金屋本江村

金右衛門

野尻村

五郎右衛門

御郡

御奉行所

御改作

御奉行所

覚

一三百六拾目

外百目

一三百五拾四匁

外式百目

右杉木御出張所御門番等、諸色高直ニ而難義仕、当年御給銀御増方願出申候付、私共示合候処、難義仕居候義者相違無御坐候間、前段之通老人ハ百目宛御郡万造ニ而相渡申度奉存候間、此段御聞届被下候様奉願上候、以上

丑十一月

石崎市右衛門等七人

金屋本江村

金右衛門等三人

御郡

御奉行所

御改作

御奉行所

御付札

本文願之趣無抛相聞候二付、願銀高老貫式百拾老匁三分三厘別仕  
法銀目錄之内を以渡方承届候之事

丑十二月

(勘波・射水郡奉行)  
大野織之介  
(勘波・射水郡奉行)  
氏家立三郎

私共御給銀之義先年御取極被下、難有奉存相勤罷在、家内取続来候  
所、近年諸色高直ニ相成難義仕、御給分御願申上、年々御増被下寔  
以難有仕合ニ奉存候、然処一昨年殊ニ昨年方米価を初一切之品過分  
至極ニ引揚、世上一体与ハ乍申、銀子御給分而已ニ而ハ渡世仕候私  
共ニ而ハ格段表裏之違ニ罷在、尤当節柄家内精誠を尽省略仕罷在候  
得共、実ハ御給銀ニ而老ケ年飯米代銀ニ行足不申族ニ御座候間、至  
極難涉仕、近年之所他借等当座并用仕候次第ニ御座候、尤御用方而  
已打懸罷在候而、外稼之筋も無御座、別而近年御用多繁ニ相成、以  
前与ハ所々ニ御役所数も相増、就中御場内ニ而ハ御産物方等、其外  
壮猶館御筒出入方等多端至極、右等ニ応シ諸御詰所御用状御往返相  
増、暨組々方申参り候御用筋も数多ニ而、夜中打懸候義常ニ相成、  
何坎失費不少義ニ御座候、将又御上納方金銀封為附、小割替候義年  
中有之、其外御用方ニ而段々使御座候故、慥成下人も召仕不申而ハ  
相弁不申、今程下人共給銀之義も前々与ハ倍シ、養方取図候得ハ、  
余程之雜用ニ相成、其上私共義ハ町方居住仕候処、春秋家懸り役銀  
を初、町懸諸役等年分無抛品々而已ニ而も余程之義、当時飯米すら  
全調兼候上、右等出道も無御座、実以歎入申族ニ御座候、一昨年に

来御願申上居候通、嘉永度御取極被下候御給銀高、其年之米直段を  
以米数ニ仕候得ハ式拾七石三斗余ニ相成、安政三年分之米直段ニ競  
候得ハ、三拾石余ニも相成、当時江引競候得ハ、三ノ一二も難及御  
給銀高ニ御座候、飯米之義ハ其節も只今逆も可減様も無御座品ニ御  
座候間、歎入居申候、百姓中ニおゐてハ乃至万雜相増候与も、米価  
等高直之折柄ニ御座候へハ迷惑之筋も有御座間敷、依而万雜を以御  
取立、米ニ而右之石数御渡方御願可申上哉、亦ハ御給銀去年御渡方  
之外ニ拾石御米御渡可被下義、押達而御願申上候義奉恐入候二付、  
御銀ニ而昨年三貫七百目御渡之上江式貫三百目御増被下、老人へ六  
貫御渡被下候様奉願上候、左候得ハ飯米申上候迄も無御座、家懸役  
銀暨日成要用買懸相弁、省畧之上、省畧仕取続申度奉存候、御用中  
ニも難涉仕、取次指廻り候坎難忘心痛仕候義歎ケ數次第ニ御座候間、  
乍恐御憐愍之御詮義を以、前段御増方之義幾重ニも御聞届被下候様  
奉願上候、此段御願申上候、已上

寅七月

御扶持人中様

番代  
孫右衛門等八人

右御郡々番代増給銀願之趣申聞、去年以来諸色殊之外高直ニも相成、  
歎聞候趣無抛相聞得申二付、私共重々示合、去年迄増給銀ニも相渡  
候外ニ、当一作前段願高之内八百目相減、老貫五百目宛一郡番代給  
銀へ引足相渡申度奉存候、此段御聞届被下候様仕度、別紙内輪取図  
り書相添奉願上候、以上

諸郡

御扶持人連名

御郡

御奉行所

御改作

御奉行所

御付札

本文詮義之通承届候之事

寅七月十二日

御郡奉行印  
改作奉行印

右似寄候歎願書付

寅七月

御扶持人中様

右諸郡番代増給銀願之趣申聞、先達而以来諸色高直ニ相成、歎聞候趣無抛相聞得申ニ付、私共重々示合、去年迄増給銀とも相渡候外、当一作老貫五百目諸郡打銀を以御渡方御聞届被下候様仕度奉願上候、以上

御改作

御奉行所

御付札

本文承届候事

寅七月

改作奉行印

右二似寄候歎願書付

寅六月

能美郡番代手伝  
五兵衛等  
諸郡手伝連名

御扶持人中様

右手伝中御給銀御増方願小紙指出申ニ付、詮義仕候処、願之趣相違も無御座、諸色高直ニ而何レも難義罷在、無抛相聞得申候間、格別之趣を以御聞届相成候様、奥書仕御願申上候、以上

能美郡番代

孫右衛門等八人

平七

諸郡番代

右御郡ニ番代手伝之義、増給銀願之趣申聞、去年以来諸色殊之外高直ニも相成、歎聞候趣無抛相聞得申ニ付、私共重々示合、去年迄増給銀とも御郡ニ寄手伝老人老貫五十目方老貫式百五十目迄相渡候外、当一作前段願之方へ七百五拾目ツ、右手伝老人へ相渡申度奉存候、此段御聞届被下候様仕度奉願上候、以上

石崎市右衛門等九人

御郡

御奉行所

御改作

御奉行所

御付札

本文詮義之通承届候之事

寅

七月十二日

三州

御郡奉行印四つ

改作奉行印

文段等畧

七百五拾目宛御開届也

慶応二年十二月御郡万雑

- 一 〇貫百貳拾七匁九分壹厘 御郡所
- 一 壹貫三百廿九匁貳分五厘 家懸
- 一 五貫七百四拾貳匁九分八厘 相談所
- 一 拾九貫三百五拾九匁六分八厘 御郡
- 一 拾三貫五百八拾五匁七分六厘 御場
- 一 九貫四百廿七匁七厘 御扶持人
- 一 貳百六拾五匁 御詰米方
- 一 四貫九百四拾九匁七分貳厘 山田
- 一 六貫三百八匁六分壹厘 太美
- 一 六貫四百廿目五分八厘 井口
- 一 七貫三百八拾壹匁八分五厘 石黒
- 一 六貫六百目四分貳厘 蟹谷

石川郡手代廿六人  
河北郡手代十八人

- 一 五貫五百廿五匁四分六厘 野尻
- 一 五貫四拾壹匁四厘 山見
- 一 五貫四百十匁九分五厘 庄下
- 一 五貫五百七十八匁四分五厘 般若
- 一 五貫八百七拾六匁貳厘 若林
- 一 六貫五拾六匁六分四厘 糸岡
- 一 六貫八拾五匁貳厘 宮嶋
- 一 七貫百六拾五匁八分五厘 五位
- 一 五貫五百拾八匁壹分四厘 国吉
- 一 壹貫五百目 馬下
- 一 七貫四百三十六匁三分六厘 飛脚
- 惣銀ノ
- 外 百四拾八貫四百廿貳匁壹分六厘 増給銀等之方へ中勘銀
- 外 拾五貫目 増給銀等之方へ中勘銀
- 合百六拾三貫四百廿貳匁壹分六厘
- 内 七貫三百九匁 軒割老軒二付
- 内 九分八厘 貳分七厘銀高割
- 拾九匁三分 去年御郡所渡鉄炮津幡迄持出人足賃拾八匁、当七月去本勘万造二相立置候分、同月御郡所方御渡二付利足銀壹匁三分共立返
- 去御郡万造後渡之方へ三川暮水下銀之内、

四匁七分八厘

五拾九匁七分老厘調達之分、当月去本勘

万造ニ而利足立を以相立置候得共、右ハ無

利足之所ニ付利足銀野尻組方取立立返

七拾貳匁

井口九左衛門殿唐竹見分宿余荷、去御郡万  
造ニ相立置候得共、詮義之上立返之分

百九拾六匁

葉種堀立為御用松田三順宿余荷、右同断立

三分八厘

返

六口

七貫六百四拾貳匁四分四厘

残而百五拾貫七百七拾九匁七分貳厘

此銀貳拾五万四千五百四拾貳石貳升四合ニ割、高百石ニ付

六拾壹匁貳分<sup>(征)</sup>正

同年十二月新開万雜

一老貫貳百三拾貳匁四厘

高

内六百拾六匁貳厘

新開高割

此内

貳匁三分貳厘

征合ニ付来十二月迄調達

残而

六百拾三匁壹分

但新開高老万五百八拾老石五升九合ニ割、高百石ニ付五匁八分

ノ正<sup>(征)</sup>

六百拾六匁貳厘

同定口割

内九分

征合ニ付来十二月迄調達

残而

六百拾五匁壹分貳厘

但定口千九百廿貳石貳斗四升八合ニ割、

定口百石ニ付三拾貳匁ノ正<sup>(征)</sup>

覚

一老貫貳百六拾六匁九分貳厘

宿余荷銀等

諸郡惣家数拾五万七千四百四拾二軒ニ割、征八〇六式

家数貳万八千四百八拾三軒

一式百廿九匁六分四厘

砺波郡

外御郡畧ス

右東本願寺新御門跡吉崎へ御下向之節、參詣人指留方ニ付出役人宿

余荷等諸雜用御渡方、同郡方御郡所へ御願申上候処、右願帳私共へ

御渡、前々之振を以割符可致旨被仰渡候ニ付、則家割ニいたし、右

之通割符いたし候之間、当廿八日切番代孫右衛門江御渡可被成候、

此状先々急速御廻達之上、留方御返可被成候、以上

寅

石崎市右衛門

荒木平助

三月廿五日

南善左衛門

諸郡

御扶持人中様

御付札

本文詮義之通承届候事

寅  
十二月廿四日  
三州  
御郡奉行印

改作奉行印

番代并同手伝之義、春來諸色高直ニ付当七月給銀増方奉願、御聞届被成下候処、其後第一米直段追々引上り、過分至極高貴ニ相成申候ニ付、先達而方右給銀米図を以相渡候様願聞候義も御座候ニ付、当七月増方御聞届被下候、給銀高之半高相減候而米渡り之義ニ取図り當時直段を以仕出申候処、別紙之通ニ相成申候、仍而番代江ハ老貫百目、手伝ハ八百目増相渡申度奉候間、此段御聞届被下候様仕度奉願上候、已上

寅十二月

御郡

御奉行所

御改作

御奉行所

覚

一五貫式百目

此内半高相減

式貫六百目

外二米二而

番代給銀渡り

相渡

拾石

此代三貫七百目

七目目図り

可相渡

當時白米店売三百八十文之旨、仍而三百

差引

老貫百目増

一式貫百目

内半高相減

老貫五十目

外二米高

五石

此代

老貫八百五十目

差引

八百目

ノ

寅十二月

増

右同断ニ付、三百七十目図り

可相渡

相渡

手伝給銀

覚

一百式拾文

但金沢行之分ハ右之外、宿料立渡可申候

右御郡所并相談所暨組々御用所等方所々江之飛脚賃、当年ハ五割増を以御郡万造江立渡候得共、来正月方右之通老里ニ付百廿文ニ取極申候、就而ハ春來之飛脚賃御書出之表ニ而ハ、暮増等多付渡有之候得共、来正月方之飛脚賃前文之通相改申上者、成限及暮ニ不申様、

諸郡

飛脚出立御申付、尤飛脚出立之砌通縮通帳之款、紙面ニ懸札いたし、出立制限書記指遣、先方ニおゐるも右飛脚帰り制限書加相返事ニ不仕而ハ、飛脚之者外用向等相調、隙取候分ニも暮増等相願候様之義多有之、甚夕煩敷趣ニ御座候間、可成丈ケ飛脚往返共刻限付いたし候様、手代中等へ訳而御談可被成候、此状寄合中御廻、留方御返可被成候、以上

寅十二月廿二日

万雑方主付印四つ

組と

御才許中様

御詰所

詰番中様

追而分役中江ハ組御才許方御演述可被成候、以上

覚

一八百目方

石川・河北之外

壹貫貳百目迄

能美郡等六郡組と手代給銀

外三百目

能美郡・砺波郡・射水郡・新川郡組と手代へ増給銀相渡申度奉存候

四百目

口郡右同断

五百目

奥郡右同断

但石川・河北両御郡手代之義ハ、当盆前増給銀渡方御聞届御座候二付、今度御願不申上候

一八百目

無組御扶持人方手代給銀

外三百目

増給銀相渡申度奉存候

一五百目方

石川・河北之外

壹貫百目迄

首座御扶持人手代給銀

外三百目

増給銀相渡申度奉存候

但石川・河北両御郡之義ハ、当盆前増給銀渡方御聞届御座候二付、此度御願不申上候

一四百目

右同断

首座之外、御扶持人方手代給銀

外

百五拾目

増給銀相渡申度奉存候

但右同断

一貳百目

組と走り給銀

外百六拾目

増給銀相渡申度奉存候

一五拾五匁

首座御扶持人方走り給銀

外四拾目

増給銀相渡申度奉存候

一四拾目

首座之外、御扶持人方走り給銀

外三拾目

増給銀相渡申度奉存候

一拾五匁

手代老人当り筆・墨料

外拾貳匁

増相渡申度奉存候

一五百六拾目方

小杉・杉木・東岩瀬御郡所惣代并詰手代等給銀

壹貫目迄

増給銀

外四百四拾目方

増給銀相渡申度奉存候

八百目迄

一六百廿目方

右三ヶ所御郡所日懸小遣式人分給銀

六百九拾目迄

外

五百目方

五百五拾目迄

一百五拾目方

貳百目迄

外百廿目方

百六拾目迄

一七百五拾目方

九百五拾目迄

外六百目方

七百六拾目迄

一五百四拾目方

七百目迄

外貳百目

一三匁方

五匁迄

外貳匁方

五匁迄

一拾匁方

拾五匁迄

外五匁方

拾匁迄

一拾匁

増給銀相渡申度奉存候

右三ヶ所牢番人給銀

増給銀相渡申度奉存候

羽喰・輪嶋・宇出津御出張所詰手代給銀

増給銀相渡申度奉存候

杉木・小杉相談所番人給銀

増給銀相渡申度奉存候

石川・河北之外、金沢二而寄合座賃

増相渡申度奉存候

石川・河北兩御郡右同断

増相渡申度奉存候

金沢二而諸郡寄合座賃

外五匁

増相渡申度奉存候

右諸郡組と手代共等給銀之義、近年増渡之義御達申上、御聞届被成下候得共、当春以来諸色弥增高直二相成申二付、難渋仕候旨先達而以来歎願、無拋義御座候二付、私共詮義仕、前段之通四割増斗方八割斗迄之図を以、増給銀相渡候事二詮義仕候間、右之通渡方御聞届被下候様仕度奉願上候、以上

寅十二月

北村与右衛門

廣瀬太兵衛

碓多市十郎

北村惣助

筒井内記

石崎市右衛門

南善左衛門

神保助三郎

本文詮義之通承届候之事

寅十二月

三州

御郡奉行

印

改作奉行印

御郡

御奉行所

御改作

御奉行所

慶応二年十二月万雜方惣代

一式百七拾六匁

山田

一式百拾六匁

太美

一三四拾貳匁

井口

一 貳百廿貳匁

石黒

一 〇百拾八匁

かんた

一 貳百八拾貳匁

野尻

一 四百五十六匁

山見

一 三百廿七匁

庄下

一 貳百六十七匁

般若

一 貳百四十六匁

若林

一 貳百九十七匁

糸岡

一 三百三十六匁

宮嶋

一 四百三十貳匁

五位

一 貳百五十貳匁

国吉

一 貳百廿四匁五分

御郡

慶応三年卯七月万雑方惣代

一 百三匁五分

御郡

一 貳百五拾貳匁

山田

一 百九拾貳匁

太美

一 三百四拾八匁

井口

一 貳百六拾四匁

石黒

一 貳百九拾四匁

蟹谷

一 三百貳拾四匁

野尻

一 三百目

山見

一 百九拾五匁

庄下

一 三百四拾五匁

般若

一 三百六匁

若林

一 百九拾八匁

糸岡

一 三百六拾六匁

宮嶋

一 貳百六拾老匁

五位

一 貳百三拾老匁

国吉

慶応二年十二月

当年京都へ御廻靱御出舩方  
等二付雑用調理帳

砺波郡

一 三貫八百五匁老分六厘

上乗人足代、甚兵衛方飛脚賃、吉右衛

門同断、巻直賃、縄皮代、料紙、枅取

人并同手伝・手代飯数六百三拾貳飯之

分御用払引去残余荷銀等へ高

内

老貫九百四拾老匁

寅十二月御郡万雑貳貫七拾目六厘相立

四分六厘

居候分之内、卯七月諸郡方可相渡分付

本勘万造へ可□□銀高

老貫八百六拾三匁

寅十二月小矢部・三日市・立野・六家

七分

御藏下へ相立居候分二付、右ヶ所可相

返銀高

右小矢部御藏等四ヶ所御別除靱之内七千俵、当年京都へ御廻二付、

上乗人足賃等雜用如此二御座候、已上

寅十二月

砺波郡

別紙京都江為御登靱川下ケ等仕候節、人足賃等入用諸郡打銀渡之義、御聞届御付札物相渡候二付、為御承知相廻申候、御写取之上御返可被成候、以上

卯

□月六日

石崎市右衛門等三人

石川・砺波・射水・新(川脱)

御扶持人中様

慶応三年七月

本勘万雜

- 一 八百四拾四匁七分 御役所
- 一 貳百九拾九匁七分 詰番所
- 一 貳貫百三拾貳匁六分三厘 相談所
- 一 九貫六百六匁九分老厘 御郡
- 一 □貫貳百廿四匁七分七厘 御場
- 一 七百拾匁九分三厘 山田
- 一 壹貫七拾三匁六分 太美
- 一 壹貫貳百八十三匁三分四厘 井口
- 一 壹貫三百九十九匁八分一厘 石黒
- 一 九百□拾三匁 蟹谷
- 一 九百五拾□匁六分貳厘 野尻

一 老貫八拾目貳分六厘 山見

一 八百十七匁九分九厘 庄下

一 八百五十九匁八分七厘 般若

一 八百九十八匁四分 若林

一 □百廿八匁五分八厘 糸岡

一 九百拾貳匁六厘 宮嶋

一 老貫貳百廿四匁四分貳厘 五位

一 老貫拾五匁四分老厘 国吉

一 拾三貫八百三拾八匁三分老厘 御手当

□□百九拾八匁五分五厘 御通行

〳四拾六貫九百八十老匁六分貳厘

内 去年京都へ為御登靱川下方等雜用之内、

老貫九百四拾老匁 上乗人足賃等貳貫七十目六厘去暮御郡万

四分六厘 造二相立置候内、重而御郡打銀渡之義御

残而 申渡有之候銀高立返

四拾五貫四十目老分六厘

但惣高廿五万四千五百四十式石式升四合二わり、高百石二付

拾七匁六分九厘四毛五八七〇四四ノ征

同月

中勘万雜

- 一 三貫九百十九匁貳分六厘 御役所
- 一 四貫五百九拾貳匁四厘 詰番
- 一 七貫七百六十八匁貳分老厘 相談所

一三貫六百廿八匁八分 御郡

一拾四貫四百八十九匁五厘 御場

〆三拾四貫三百九十七匁三分六厘

内廿目四分老厘 征合拵拾二付調達

残而

三拾四貫三百七十六匁九分五厘

但惣高廿五万四千五百四十式石式升四合二わり、高百石二付

拾三匁五分〇五毛四一式九五六ノ正<sup>(征)</sup>

此二口合

三拾老匁式分

七月七日切

小遣和三郎日懸、正月方六月中迄式百六拾四匁与番代市兵衛方今度書出申候得共、此地二而取しらへ候処、正月方六月中迄日数百七十六日分、一日式匁五分宛二而四百四拾目之半高式百廿目二相成申候、右今度増方被仰付候義二而も御座候哉、又ハ間違二而も可有御座哉、番代方御尋、否御申越被下度候、已上

杉木二而

卯七月二日

四日町崑平次

荒木平助様 本江金石衛門様

右御申越之趣致承知、相しらへ候得共、去暮之処も砺波方一日分老匁五分、射水郡方老匁五分与相成居申候、番代方申聞□□、七月并十二月「」御達□□も無之、右之訳二□□居申旨二御座候、四百四拾目与申事□、先□長四郎勤申、右様之義も有之、宿分を例通御郡万造二御立可被成義二御座候、右御報如此御座候、以上

七月四日

四日町崑平次様

尚□達而為書出候番代紙面も別帛□申候、已上

卯七月改 覚

一四貫目 寅十二月仕法銀方方万造方へ借用銀

外 三百式拾目 卯七月迄利足老分

〆四貫三百廿目

内式貫目 弥兵衛貸付

七百三十目六分式厘 仁吉郎渡□

六百七十匁六分五厘 七月万造へ調達

七百目 又七へ手代中身当之方へ貸付

〆 式百七十七匁七分三厘 貸付不足

此方二

七十式匁式分五厘 老匁老□

三百五十七匁 札

四匁六分八厘 せん

〆 式百十四匁式分 出銀

相談所番人勤向之事

一組と方檢使乞二、村役人等并金沢表暨組と等方飛脚至來之節、何

荒木平助等

方々之飛脚与申義相尋、御用品取請、手代仁吉郎江其段申入相渡、詰番等へ相達貴可申、若仁吉郎立違居候義有之候得ハ、詰番等家来之者方達方致貴可申事

附り返書等相渡可申義ニ候間、飛脚等之者□□可申、尤自分ニ少シニ而も留置申間敷支

一組と等御用ニ付紙面等差遣候節、飛脚触之儀嚴重相心得可申事

□□夜之無差別見廻方等嚴重相心得可□、尤門暨戸縮等之義嚴重可仕支

一火盗用心嚴重相心得、大風等之節、飯焚□談、見廻方等嚴重相心得可申支

一相談所居間内掃除方等毎日致可申、且□寄合并平日詰番之節、其家共与申談、如何□掃ふさま、たし等可仕事

一居屋敷内掃除方等、草取等嚴重可仕支

一不時ニ外用ニ罷出度義有之節ハ、手代仁吉郎へ相尋可申、尤飯焚江も示合、<sup>二而も</sup>少も明ケ申間敷支

一平日と雇小遣罷在不申支故、行燈等掃除方等嚴重相心得可申事

附り寄合之節ハ、日雇小遣并家来之者与申談、不指支様可仕事

右今般詮義之上、前段ケ條書を以取極□□、嚴重相心得可申、尤何ニよらす手代仁吉郎江□尋、御用支ニ不相成、專一二相心得可申事

卯□月

御扶持人  
十 村

相談所番人

覚助殿

相談所飯焚勤向之支

一御郡所詰番食事朝早ク拵、御用支ニ不□成様可仕、尤精進等之様子其家来之者方為相尋可申事

一寄合之節も同様ニ相心得可申、且又不時ニ出役□□等急ニ食事可致義も可有之候間、断次第不指支様相心得可申事

附り御用ニ寄、夜飯可致義も可有之、申談次第不差支様相心得可申事

一炭薪之義も如何ニ茂致省畧、猥ニ遣不申、尤不用ニ遣不申様嚴重相心得可申事

一平日詰番等迫之節、番人等申談、掃除方等嚴重可仕事

一組と等手代中寄合ニ罷出候節、并外御用ニ而不時ニ出役有之節、食事申談次第差出可申事

附り御用ニ寄、調筆人等相雇、食事□義手代中方申談、断次第指出可申支

一他ノ御郡御扶持人中等御郡所等へ御用有□□越、食事之義断次第指出可申、尤何ニよらす手代仁吉郎江相尋、不差支様相心得可申支

一平日詰番并寄合等之節、朝早ク起、手洗場用意致置、不差支様可仕事

一昼夜之無差別相談所申間敷、若立違義有之節ハ、番人与申談罷出可申事

一番人立違居候節、組と方檢使乞等ニ村役人等□金沢表暨組と等方御用ニ付飛脚等至来之節、何方方之飛脚与申義相尋、御用品取

受、仁吉郎江其段申入相渡、詰番相達貴可申、若仁吉郎立違居候

義有之□□、詰番等家来之者方達方致貴可申事

附り返書等相渡可申義も可有之候間、飛脚等之者留置、尤自分

二少シニ而も留置申間敷事

一二便所糞等相渡候事ニ相成候間、有無ニ不抱五日ニ老偏宛取可申、

尤二便所等掃除方毎日厳重可仕支

附り毎日切藁ヲ入糞隠置可申支

一火盗用心等之義厳重相心得可申、且又大風之節番人申談、見廻方  
等厳重相心得可申事

右今般詮義之上、ヶ条書を以前段之通取極候間、厳重相心得可申、  
尤何ニよらず手代仁吉郎相尋、御用支ニ不相成様厳重相心得可申事

卯十月

御扶■人

十 村

相談所飯焚

又七殿

慶応三年十二月

一九貫四百九拾五匁老分五厘

軒割万雜銀高

但老軒ニ付三分五厘ツ、

一□□百五拾七匁四分八厘

外国方雜用銀

但惣高廿五万四千六百六石三斗八升五合ニ割、高百石ニ付式取

老分八厘〇四卷六ノ正<sup>(征)</sup>

一百九拾老貫四百八匁六分七厘

御郡万雜銀高

但前段惣高二割、高百石ニ付七拾五匁九厘九毛六四六ノ正<sup>(征)</sup>

二口合百九拾六貫七百七十匁老分五厘

此内

式百四匁□厘

征合ニ付調達

残而百九十六貫五百五十六匁老分三厘

但七拾五匁老厘九毛五八四御郡万雜之正、式匁老分八厘〇四一六

外国方之正、二口合高百石ニ付七拾七匁式分ノ正<sup>(征)</sup>

一老貫九拾老匁四分

新開方万雜銀高

内五百四拾五匁七分

新開高割

内五匁五分五厘

征合ニ付調達

引〆五百四十目老分五厘

但新開高老万五百九十一石式斗一升三合へ割、高百石ニ付五匁

老分ノ正<sup>(征)</sup>

五百四十五匁七分

同定口割

此内

老匁三分四厘

征合ニ付調達

引〆五百四十四匁三分七厘

但□□定口千八百七十七石老斗五升四合ニ割、定口百石ニ付廿

九匁ノ正<sup>(征)</sup>

頼成村弥兵工義、御郡万造しらへ方ニ是迄為取懸居候得共、申談御  
用筋有之ニ付、早速致出府候様申渡候、弥兵衛義右呼立之御用ニ取  
懸候へハ、急ニ万造方ニハ取懸得申間敷候間、各様御示合被成、誰  
ニ而も当分之所右万雜へ為取懸被成候様仕度、右之者取極之上ハ、  
御序ニ其旨御申越可被成候、以上

知十一月七日

石崎市右衛門  
荒木平助

安藤次郎四郎様  
長田金右衛門様  
野尻五郎右衛門様

27、「子孫為心得<sup>(抜)</sup>秘写等覚帳」

(富山大学附属図書館・菊池文書KKB00400000)

(表紙)

子孫為心得<sup>(抜)</sup>秘写等覚帳

弘化四未年方時と御尋二付、書上候<sup>(抜)</sup>秘写等子孫為心得書記之候事

御聞前之趣夫と御答申上候所、私才許以前習俗違乱之品  
御尋二付書上之申候

一天保十一年二月八代組才許被仰渡、同十年迄縁組願一円無之、人

別送状取遣不仕、人別切・人別人願願不出、勝手次第二仕居候、且人別帳名違并年附相違之分多有之、名目迄之人別帳二相成居申候

一他之御支配所江罷出居候者、御聞届ヲ請候分無御座候

一天保八年諸借財御仕法被仰渡候得共、下方江貫通不仕、同十一年以来外詮義方二而申頭候分、其時と御達申上置候

一鯨胤之節、組才許等出役縮方可仕事二相成来候得共、名目迄二而、

水見町等方手伝杯与申立胤舟等数拾艘馳出、○浜江引取不申内、

海中二而悉く奪取、半分も網元江取揚不申族二而造用負二相成、胤業不相成趣、村と役人相歎候二付、篠原様等江御達申上候所、

去ル已年今石動御奉行所江御引合之上、組才許縮方二罷出、及狼藉候者向寄藤内二為召捕、御郡所江可指出旨、御紙面を以被仰渡候二付、其以来賊舟老艘も出不申、全取揚申候

一鯨胤之節、前條同様水見町等方胤舟等三・四拾艘も出居、手伝之趣二而取揚、鯨等三・四歩通も被奪取迷惑仕候旨、井口様御郡廻

之節村と役人歎出、御達申上候所、第一鯨十分一御運上銀相減候義不埒至極之趣二候間、組才許之手代指出、村役人惣代并向寄藤内指出、厳重縮方為仕、尤及狼藉候者召捕、御郡所江可指出旨、

御紙面を以被仰渡候所、賊舟出不申、全取揚申候、然所放生津浦二ハ胤師除銀取立有之二付、御取扱等御難題二不相成、灘浦二ハ除銀無之故、不胤之節御貸米等御難題二相成候間、除銀為仕候様被仰渡、其段申論<sup>候所</sup>○魚代百文二付五文斗り除銀仕度旨願出、除

銀仕法被仰付候、尤前段三・四分通も被奪取候分、全取揚候内を以聊除銀仕候義二御座候

一 鏡磨他国出之者共帰国之節、氷見町茶店等ニ而帰祝与申、酒肴等  
取はやし、且為土産物同所ニ而酒・肴・飴類等買求、難渋之者ハ  
代料七・八百文より、身元可成之者ハ式貫文余も費相懸候義、往  
古方之流例ニ相成来候旨、篠原様等及御聞、先以御仕入を請、稼  
業仕候者共沙汰之限り、向後急度為指止可申、万一相止不申者於  
有之ハ、御仕入○被仰付段、去ル午年御紙面を以被仰渡相止申候、  
然所同年御仕法除銀講御取立ニ付、加入為仕候而仕法濟之上ハ、  
毎歳延御払米千石斗り、御銀八拾貫目斗り拝借仕候分指止、右仕  
法○を以仕入可相弁旨被仰渡候ニ付、鏡磨共他国出一度分へ初会  
老刃五分宛、身元之者共方も加入為仕、右講満会迄二百六拾貫目  
斗りニ可相成仕法ニ被仰付候

一 百姓跡目立并後見之義、御聞届を請候分無御座、村方ニ而勝手ニ  
跡目相立、幼少者ニ而も後見人無之、切高等勝手次第第二仕来申候  
一 御田地割之義、式拾ヶ年宛ニ而願上、御田地割可仕義ニ御座候所、  
いつ頃御田地割仕候哉、年限も相知不申村と多分ニ付、組合五ヶ  
村番操等ニ而追々御田地割為仕申候、上庄・南條兩組ハ今以改り  
不申由ニ御座候

一 持山讓替之義組才許承り届、証文ニ奥書仕、売買為仕可申旨、天  
保八年被仰渡候得共、讓替証文ニ奥書有之分無御座、尤組才許之  
聞届ヲ請、売買仕候義承知不仕、村方切ニ而勝手ニ仕居候故、多  
ク申分出来仕申候

一 御收納米取立方惣代役人相立居、買入米老石ニ付造用式刃方老刃  
五分迄仕切銀ニ相成居、十月頃方氷見町江出張罷在、村と百姓中  
等方稼代錢等直ニ取立申候、皆済前組才許之者手代召連、氷見町

江出張、村と役人并百姓中暨小作迄○呼立入詰方詮義仕候故、右  
町ニ而惣代役人・相役人・百姓等飯代・旅籠賃等過分至極雜費相  
懸り、且若キ者共等料理屋并遊所等ニ而錢遣、明家等持高二至迄  
売払候者も多出来申ニ付、天保十一年御改作所江御達申上、氷見  
町江出張候義為指止、買入米老石ニ付五分宛之仕切銀ニ仕、組才  
許方ニ而惣代役人ニ米代銀為取立候事ニ相成候所、一組方拾貫目  
余も氷見町不潤色ニ相成候由ニ而、右町方色と申立候由、尤八代  
組ハ右仕法之通ニ相成候へ共、上庄・南條兩組ハ今更皆済前組才  
許氷見町江出張、村と役人等も長ク出居候由ニ御座候

一 前條之通組才許氷見町江出張詮義仕候得共、散米之義何与坎訳柄  
も有之哉、散米詮義不仕、皆済入詰方而已詮義仕候ニ付、不足米  
指懸出道六ヶ敷故、氷見町蔵宿ニ而米借用皆済仕申候、然所利足  
二割、其上村ニ依り仲人ニ口錢出シ借請候間、高利足ニ相成、百  
姓中不得成立体ニ付、夫と御願申上、諸諸稼御仕入銀米拝借仕相  
渡、皆済入詰為仕、蔵宿借為止申候、上庄・南條兩組ハ今以蔵宿  
借有之由ニ御座候

一 私才許以前、現銀御払米代銀取立之内を以、組方江取扱等渡方有  
之ニ付、過分至極之上納不足ニ相成、天保七年氷見庄八代・上庄  
・南條三組不足銀式百四拾貳貫五百六拾五匁上納御用捨被仰付  
候、且天保九年不足銀九拾九貫六百三拾三匁四分六厘之内、五拾  
貳貫五百六拾八匁九分九厘組才許手前ニ而取扱、村と江相渡置候  
分等出道無之分御用捨ニ相成、錢四拾七貫四拾六匁四分七厘無利  
足式十五ヶ年賦ニ被仰仰付候族ニ而、天保十一年ニ仕法相立候様  
御改作所方被仰渡、則仕法相立、其以來代銀上納不足仕候義無御

座候

八代組万造孫八才許二相成、過分相懸候由御聞前御詮義二付、去ル午年書上候<sup>(被)書</sup>○写

一 六百九拾九貫四百貳拾九文 加納村弥八郎才許中、天保十年八

代組万造高

一 五百貳拾四貫六百貳拾七文<sup>七</sup> 孫八才許、同十一年八代組万造高

但孫八才許初年二而、其以前上納銀等<sup>等</sup>相滞り居、諸事混居候二付、

調理方村役人<sup>惣代</sup>○日懸飯代等雜用過分相懸、銀嵩二相成申候

一 四百四拾四貫八百三拾五文 同十二年、同断

一 三百七拾八貫三百七拾九文 同十三年、同断

一 三百七拾三貫四百四文 同十四年、同断

但其以後少々之増減ハ御座候得共、格別之増減無御座候

右私才許以前習俗違乱之品御尋二付、大凡書上之申候、其余兩御役

所御詮義を請、相改候義等委曲先達而御答書上置候<sup>(符)</sup>通二御座候、

以上

未

弘化四年十月

權正寺村

孫八

篠原文次郎様

井口孝左衛門様

但小紙アリ

右同様御改作所江老通書上候事

御通行方二付<sup>(伝)</sup>軛馬等御郡方余内銀、去ル丑年減方書上之写

一 貳貫五百九拾目七分

寅九月

一 壹貫五拾目九分九厘

御參勤之砌、砺波郡諸雜用高  
当十月

〳三貫六百四拾壹匁六分九厘

此方二

拾七貫百貳拾九匁

貳分六厘

去年兩度  
御通行之砌、同郡造用高

指引<sup>〳</sup>

拾三貫〇八拾七匁<sup>四百</sup>

五分七厘

当年減方二相成申候

一 貳貫百拾匁八分八厘

当九月

御參勤之砌、射水郡諸造用高

当十月

一 壹貫百六拾六匁貳分九厘

御国江被為 入候砌、右同断

〳三貫貳百七拾壹匁分七厘

此方二

拾三貫七百六拾壹匁

三分九厘

去年兩度  
通行之砌、同郡諸造用高

指引<sup>〳</sup>

拾貫四百八拾四匁

貳分貳厘

当年減方二相成申候

兩御郡当年分諸造用<sup>〳</sup>

六貫九百拾八匁八分六厘

同去年諸造用<sup>〳</sup>

三拾貫八百九拾目六分五厘

同減方<sup>ノ</sup>

式拾三貫九百七拾壹匁七分九厘

右

御兩殿様 御通行之砌、宿繼人馬余荷銀等諸造用増減書上可申旨就  
被仰渡候、相調理書上之申候、以上

嘉永六年十月

石崎市右衛門

島 孫 八

中田村

源 五 郎

(備波・射水郡奉行)  
伊藤久米之助殿

(備波・射水郡奉行)  
村安左衛門殿

右

御參勤等 御休泊所・御供人賄方等、諸事は迄之仕来ヲ離、省畧方  
主附石崎市右衛門・島孫八兩人砺波・射水兩御郡打込可相勤旨、丑  
八月十四日ニ被仰渡候、然所市右衛門義立毛方御用ニ罷出居、右主  
附御用ニ不得罷出、九月六日

御發駕ニ付、指懸無拋孫八老人ニ而夫々仕法方等御伺申上、取極申  
候、且

(前田慶寧)  
筑前守様九月廿八日江戸表 御發<sup>駕</sup>〇之所、市右衛門義先達而以来立

毛方御用ニ罷出居、夫方直ニ口郡御見立御用ニ出役被仰渡、御通筋  
諸事御指支無御座様、夫々仕法方被仰付置候得共、御通之砌老人  
ニ而ハ手廻兼候趣御達申上候所、九月廿二日中田村源五郎主<sup>■</sup>附ニ  
指加被仰渡候事

射水郡万造、近年増減書上可申旨御改作所方就被仰渡<sup>候</sup>書上候写

射水郡万造近年増減之覺

五十嵐孫作手懸中

一六拾貫目余

去ル酉年御郡万造高

戌六月御改作所方初而齊藤庄五郎江調理方主附被仰渡候

一六拾三貫貳百八匁三厘

戌年右同断

外ニ

三拾壹貫目余五十嵐孫作手懸中、戌年迄万造方借用銀

但此分亥・子・丑三ヶ年ニ別取立ニ仕可相濟旨、御改作所方被

仰渡、丑年迄も御郡方取立相濟申候

亥十二月御改作所方島孫八主附ニ指加被仰渡候

一四拾貫六百貳拾壹匁五厘

亥年<sup>御郡</sup>〇万造高

同断

一式拾壹貫八百三拾四匁三分壹厘 子年右同断

但六月・十二月兩度取立候中勘打銀指引<sup>ノ</sup>

拾貳貫百四拾六匁五分貳厘 過銀

但前段中勘銀取立置、尚更省畧仕候所、此銀高過ニ相成候間、

丑年万造方江相渡度旨、帳面ニ調上<sup>尚</sup>〇奉伺<sup>置</sup>〇申候

右之通丑四月御改作所江書上置申候

(修正付箋)  
「右御郡万造増減御尋ニ付書上之申候、以上

丑三月

射水郡

丑四月

丑四月改而御郡・御改作兩御役所方孫八并嶋村理三郎江調理方主附

被仰渡候

一拾七貫九百貳拾壹匁五分 丑年分是迄之御郡万造ニ当銀高

但去ル戌年庄五郎主附中御郡万造六拾三貫貳百八匁三厘指引

仕候へハ、四拾五貫貳百八拾六匁五分三厘減方ニ相成申候

一貳拾貳貫九百九拾五匁四分 同年分是迄之組万造ニ当ル銀高

但子年組ニ万造高、丑十二月決算之砌相調理候所、四拾壹貫

三百拾貳匁五分三厘ニ相成、指引仕候へハ、拾八貫三百拾七

匁分三厘減方ニ相成、御郡万造共二口六拾三貫六百目余

減方ニ相成申候

四拾貫九百拾六匁九分 丑年御郡万造并組ニ万造打込候万造高

但子年過銀を以丑年盆拵等仕、同十二月中勘取立銀

指引

貳拾壹貫六百三拾八匁五厘 過銀

但大綱図を以中勘打銀取立置、尚更省畧仕候所、右銀高過ニ相成

候ニ付、早速村ニ江割返申度旨、翌年春万造帳上候節奉伺○申候

子孫為心得書記之候事

孫八勤向每度御聞前ニ相成候濫觴ハ、八代組○加納村弥八郎義御

改作所御詮義之上、天保十一年春十村役御指除、右代り同年二月

孫八義射水郡江引越、八代組才許被仰渡候、然所右組百姓中等困

窮ニ迫り、他国江出走、或ハ死絶人多有之一ヶ村ニ二・三軒方拾

軒余迄も明家立腐ニ相成居候へ共、村方ニ而取毀方等仕抹も不得

仕候、且天保十一年迄御払米代銀上納并拜借銀等多、返上滞居

候○ニ付、両御奉行所より成立方之義格別ニ勢子方被仰渡候ニ付、

前冊ニ記置候通、習俗違乱之品等御伺申上相改、夫ニ仕法相立候

所、於氷見町不一方潤色おとりニ相成、全ク孫八之所為与存込、

元之砺波郡江不返而ハ氷見町之憂難遁与、潤色省之者共色ト申立

候由、然所藪田屋傳吉与申者同町之■役与坎ニ而、今石動与力衆

中等金沢・魚津両御改方役人中与熟懇ニ致居候由、潤色省之者共

方右傳吉江示合、孫八退○為致候内談ニ而、色ト取図り候由、右

傳吉義八代組藪田村出生、孫十郎弟ニ而、同村仁兵衛・脇方村平

兵衛等四・五人申合居候由、于時弘化三年十月新田才許布施村与

三兵衛江之村送状ニ認、途中方指出、与三兵衛江相届キ、同人致

開封候所、孫八不正十一ヶ条、八代組一統与有之訴状ニ付、直ニ

御改作所江御達申上候所、御郡・御改作所御奉行所御立会、内御

詮義被仰付、夫ニ御答申上候○相分り候旨被仰聞候、且未十月加

刃御改方方仰来候旨ニ而、午年訴状ニ似寄候不正十式ヶ条八代組

一統与有之、訴書御郡所ニ而御尋ニ付、夫ニ御答申上、○懸り合

之村ニ江御尋被下候様申上候、然所村ニ役人等御呼出シ、御尋御

座候所、聊無之事故、ヶ様之義何方申上候哉対談被仰付候様、

村役人等願上候由、将又申二月前段ニ似寄候十三ヶ条、是ハ其前

年未年御横○山田吉郎右衛門様○傳吉方上候訴状ニ而可有之坎、

御郡・御改作所御奉行所御立会、御聞前之趣を以御詮義被仰付、

夫ニ御答申上候所、虚談・讒言而已之義相分り候御様子、然所傳

吉義右山田様御屋敷江懸込仕候節訴状上、御達ニ相成候由ニ而、

傳吉義今石動御役所江御引渡、氷見町役人江御預ニ相成居候、右

意恨ハ末年藪田村仁兵衛・孫十郎兩人方傳吉へ申談、氷見浦方灘浦胤網場へ意地構為致、於御郡所御糺之上、仁兵衛・孫十郎入牢被仰付候、就夫○、傳吉義氷見町へ人別送御聞届無之者二付、御郡方江御引込ニ可相成哉之旨、今石動方洩聞へ候体、左候時ハ御郡方ニ而永御縮所ニ而も可被仰付哉与存込、山田様江懸込任候所、今石動江御引渡、同所ニ而入牢被仰付置候、然所酉正月方閏四月迄孫八懸り合之者数拾入金沢へ御呼出シ、孫八義御詮義御取懸ニ付、御詮義中指扣罷在候様被仰渡、夫ニ内御詮義被仰付、御尋之品ハ午年以來之訴状ニ似寄候ヶ条多分にて、閏四月迄時々之口書上置候、仁兵衛・孫十郎・小杉村九郎太郎三人御詮義之上○才許預ニ相成候、其後傳吉手前も於今石動ニ御詮義有之由、同年十二月孫八始懸り合之者共も御宥免被仰付候、然所傳吉雜費段増長、過分入用嵩ニ相成、取初申合居候義も有之由ニ候得共、出方致混雜候様風聞有之事一鯨・鰯等利不尽ニ奪取候義ニハ候へ共、往古方之所業取失、困窮仕候者共も多、八代組灘浦網仕入多分水見町之者共仕来、是も除銀仕法相立、畢竟氷見町方之仕入為指止候企企之様存込候由、将又鏡磨共帰国之節土産物買求候義、暨御收納米為取立方氷見町へ出張候宿料等之義蔵宿借カリ之分相止候、潤色劣り大綱銀因り、鯨・鰯等奪取候分、式拾貫目とも四五拾貫目とも難斗、鏡磨共帰国大綱式千五百人平均老人八匁因ニしても式拾貫目斗、御收納取立方ニ氷見町江出候役人、百姓・小作ニ至迄宿料等百ヶ村平均一ヶ村百五拾目因りにても拾五貫目斗り、蔵宿賃一ヶ村式拾石平均ニ而も式千石之○二割利足之内一割潤色劣り与因り拾三四貫目斗り、至而事輕ニ因り候所六七拾貫目斗り、其外大獵之節奪取候鯨・鰯等并

御收納方ニ付氷見町へ出候砌料理屋・遊所等ニ而遣捨候分、何拾貫目とも難斗、不容易潤色劣故、色々妨仕候義も無抛事二候、右等酉年御詮義方口書ニ而明白ニ相分り申候、其以來ハ右潤色劣り之者共執心薄ク相成候由之事

一子・丑以來之御聞前ハ、御郡内方出候体、第一戌年御郡万造調理方主附斎藤庄五郎江被仰渡候所、同年三貫目斗り前年方相増候、然所○翌亥十二月孫八義右主附ニ指加被仰渡候所○、同年式拾貳貫六百目斗相減シ、又子年拾八貫八百目斗減少、且組々万造共丑年迄引競、六拾三貫目斗り減少、向後毎歳右銀高相減候手跡出来候ニ付、高嵩所持之者ハ難有かり可申候得共、右高持之内ニも中間共始手代・町在村々役人ニ至迄自分可出雜費も、其已前ハ御郡并組方暨村万造方取立来候由、是等自身分出シニ可仕事ニ相成候故、自由不相成、且孫八江意恨有之者共、将又酉年迄色々妨仕候傳吉等之者執心相残り居候者共罷在候故、御内聞等被仰付候へハ、幸ニ存、種々取因り申込候義も可有之、是も年月ヲ経候へハ自然可相分候事

一不当之万造省畧方被仰渡候ニ付、去ル子春小杵新町相談所指止候得ハ、御郡方之益ニ可相成様孫作・善左衛門方両御役所江御内達申上候ニ付、指止可申旨御紙面を以被仰渡候得共、止候而ハ畢竟御郡方之為（カ）からす様心付、万造方主附手前ニ而得失之所精誠試申度奉存候間、一兩年御見合被下候様庄五郎・孫八兩人小紙を以願上置候、然所得失之所相分り候哉、相談所無之御郡も追々相建候様被仰渡候義ニ而、発端人不興之体ニ候事

一去ル戌六月御仕法高調理方主附孫八江被仰渡、夫々相調理候得ハ、

作德米代銀之内三拾壹貫目余不足二相成居、庄五郎へ相尋候へハ、

存不申旨申聞、孫作へ相尋候所、御郡借財之方江引當置候旨申聞、

御達申上候所、御詮義之上、亥・子・丑三ヶ年二御郡方取立、

御仕法高へ返弁可仕旨被仰渡候、且御仕法除銀講江三口加入有之、

出銀御請取通帳一口二一冊宛三冊御郡所方御渡有之、右御通帳引

當二上候へハ、出銀丈ケ拝借可相成義二付、主附手前二仕抹置可

申訳故、孫作へ及催促候得共、彼は申立相渡不申、然所子二月除

銀講会江罷出、右三口出銀指出候上、御通帳可請取旨申入候所、

御かね才許彦九郎等申聞候へ、五十嵐孫作拝借銀五拾貫目之方江

引當二相成居候間、難相渡旨申聞候に付、自分借用之方江引當候

義ハ如何与奉存候旨、井口様江御伺申上候所、可相渡旨彦九郎等

江被仰渡、御通帳受取候所、孫作自分借用二引當無之事二相成及

当惑、漸々井口様江願上、御奥書を請相弁候得共、御通帳引當テ

ハ御利足八朱、自分借用ハ一割故、五拾貫目二八年二壹貫式百目〇宛

余斗相懸り、及迷惑甚夕立腹之由二候事

一嶋田故権五郎様先年定檢地御奉行所御勤之頃、孫八義下役相勤居、

御転役後〇後も折二御屋敷江罷出候事も有之候へ共、其後御家中様方

江立入不申様被仰渡候二付、罷出不申候、然所去ル亥年折橋甚助

申聞候へ、嶋田当勘右衛門様御談被成度義有之間、同道可仕様被

仰候旨甚助申聞候二付、御立入申義不相成訳二候へハ、罷上候義

ハ仕兼候間、御用向御使を以成共被仰下候様能々取斗申上呉候様、

甚助へ申入置候、其後甚助宿へ孫八罷出候節、勘右衛門様三四度

も御出居被成候得共、何等も不被仰聞、不興之体二付、其時々甚

助へ指懸御用等申入、早々引取候、甚夕無興〇毒千氣之万奉恐入罷在

候

一去ル子年南條組等水損御取扱願等二十一月方出府、夫々夫と御願

申上、願書納り候二付、万造調理方相後候而ハ下方迷惑可仕義故、

折橋甚助・孫八兩人御暇願上、万雜調理二可取懸中間示談二而、

諸書物庄五郎手前二有之、同人手代長兵衛手懸罷在候間、長兵衛

二諸書物為持〇相談候様所江可遣旨庄五郎申聞、右之示合二而罷帰り、

相談所江罷出候所、長兵衛不罷出二付、再往尋二遣候得共、金沢

方不罷帰旨庄五郎手代共方申越、翌日夜二入書〇持參罷出、漸々

調理二取懸り、諸雜用多分調理付候所江、追日庄五郎義罷越候二

付、調理方之義夫と演述仕、子年盆弘中勘銀指分り兼候義有之、

相尋候所、長兵衛義承知罷在候旨庄五郎申聞、長兵衛呼寄相尋候

へハ、存不申旨申聞、相分り不申二付、孫八申入候へ、手代二伺

置候義も如何敷候へ共、指引方分り候へ者可弁所、長兵衛存不申

旨申聞、且先日諸書物長兵衛二為持、相談所へ可被遣、金沢二而

示合之所孫八等罷出候二日日夜二入、長兵衛罷出候族、組と才許

中等大勢出座候へ共、調理方出来不申、彼は月迫二相成、飛脚賃

等渡方相後候而ハ、軽キ者共迷惑可仕旨申入候へハ、長兵衛手懸

候書物有之、無抛相後候旨庄五郎申聞候二付、諸願不殘書上置候

得ハ、其外二願書等無之筈、留入写物等ハ物書等誰二而も可弁品、

会得仕兼候旨孫八申入候所、庄五郎無言二罷在候故、何様盆弘中

勘指引不相立而ハ不相成旨申入、孫八等調理二取懸、色と相考、

漸々調理分ケ決算相立候、庄五郎義中一両日罷在引取申二付、孫

八跡二殘居、諸弘方取しらへ、庄五郎・孫八兩人手代相談所二而

弘方可仕旨申談、諸書物・在銀孫八持參帰宅仕候所、彼は月迫二

相成、翌正月三日方諸松根帳等引合算入再調理等仕、書上帳下物相認、出府仕、庄五郎・善左衛門等江示談之上清帳調、御改作所江御達申上、精誠省畧仕候所、拾式貫目斗り過銀二相成候間、丑年万造盆払等二仕度旨、帳面二調置申通二御座候間、右銀高上置候得ハ可然哉、御指図被成下候様申上置候義二候所、諸帳面・在銀迄も孫八方江引取、且庄五郎江過言申聞候義不相當趣、庄五郎最貞之者等方申触候由、前段之仕合二而、庄五郎手懸不申故、跡再しらへ等も出来不申二付、諸書物等引取候訳、尤過言与ハ不存、指懸調理方弁兼候趣、一応申入候義ハ御用之筋与存候所、過言与申触候義存外之事二候

一 灘浦御仕法銀孫八等才許仕候所、内嶋村佐次右衛門為役用銀拾貫目拝借、元銀之内式割与利足、丑ノ十一月中返上可仕極二而有之候所、期日返納不仕二付及催促候所、菅作村と江貸付置候所、不<sup>レ</sup>作いたし、元銀二割之分返納不相成旨申越、約定之貸付銀渡方指支、無抛御断申上候所、御詮義被仰付、寅正月中途二漸と返納仕<sup>○</sup>、此義<sup>（意）</sup>恨も有之故、嚴重取立候与申風聞有之、右ハ十一月初頃迄二返納指支候旨申聞候へハ、手操<sup>（意）</sup>之致様も可有之候へ共、十一月中何二も不申聞故、証文通返納可致義与相心得、御普請渡り銀并貸付方夫と治定之上二候へハ、如何とも致方無之、右様等閑二致置、<sup>（意）</sup>意恨与申風聞二預り候義心外至極二存候事

一 御半納<sup>○</sup>買入候濫觴ハ、去ル巳年氷見庄渴廻等不作仕、御取扱米等被仰付、氷見御米無数二相成、御收納為入詰、毎年被仰付候現銀御払米高岡・放生津二而御渡之旨被仰渡、然所深雪二而陸持不相成、船積難弁時節故、御收納指支、売替米等願上皆濟仕候族二

而、村と格別之願有之、御詮義之上翌午年方御銀拜借被仰付、夫と相渡、村と惣代役人御半納米<sup>○</sup>買入、御切手御算用場江指上、御追詰米<sup>二</sup>御印<sup>被成下、御印</sup>御渡替被仰付、皆濟仕来申候、子年迄七ヶ年之間御半納直段方暮安直<sup>二</sup>而外組<sup>と</sup>高直二相成候事も有之候へ共、多分ハ<sup>安</sup>下直二相成候、近年之所二而ハ、亥年ハ買入米老石二付三匁五分斗隣組方高直二相成候へ共、戌年ハ七匁余、子年五匁斗り安直二相成候、且以前ハ窪村九左衛門義現銀買入米方主附二相立居、村とより代銀取立、暮二至り御切<sup>手</sup>米買入候由、其後柿谷村庄十郎・北八代村理助兩人主附二相立、十一月頃方氷見町江出張、九左衛門同様御切手買入候所、商人共申合候体二而、外ヶ所之割合与ハ石二付四・五匁も高直二罷成、高嵩所持之者ハ宜候得共、買入米仕候者共及迷惑候、然所現銀御払米并御半納米買入御收納仕、暮米買入不申二付、外ヶ所<sup>割合</sup>与ハ安直二相成、暨九左衛門主附之頃ハ造用石二付式匁宛、庄十郎等主附中老匁五分之仕切銀二相成居、孫八才許二相成、御伺申上、氷見へ出張候義等相改候二付、造用仕立候所、石<sup>二付</sup>六分斗二相成候、然所翌天保十二年村と依願石二付五分宛<sup>五</sup>之仕切銀二相成、是又減少旁以前段直段違、七・八匁斗も平年減少仕候、就中天保之末頃ハ現銀<sup>等</sup>御払米等七・八千石余も願請候得共、内輪二六千石与圖、直段違七匁与圖候得<sup>も</sup>ハ、四拾式貫目斗り自然氷見庄之益二相成居候、右雜用之義仕立二致候へハ、相当之義精誠二相当候へ共、年を経候へハ、いつとなく相ゆるみ、造用嵩<sup>と</sup>二可相成、尤現銀<sup>等</sup>御払米等願ヶ所二而不被仰付事も有之、前広手配不仕置而ハ斗返入用莫太<sup>と</sup>二相成可申義二付、願通り石<sup>二付</sup>五分之仕切銀二為致置候、然所去ル申・酉兩度

御詮義之節、御半納米買入方為指止度旨、御改作所江申上候得共、  
酉年村と役人<sup>等</sup>○手前御糺被成候へハ能相分り、百姓為筋之義を組  
才許指止度与申義不相当旨被仰聞、無扨御半納米為買入候得共、  
丑三月御詮義之節、毎度之御聞前恐入候間、是非為指止度、銀納  
願仕候所、○御詮義中<sup>ハ同年暮ニ至</sup>是迄御半納米買入来候米高御半納直段を以  
丑年<sup>丑暮</sup>○別段御払米被仰付、隣組方ハ御蔵米四匁斗、町米式匁斗安  
直ニ相成候、寅年も御半納直段を以別段御払米被仰付候由、寅年  
ハ御半納直段方暮直段直安故、組方之益ニハ相成間敷候へ共、毎  
歳右様被仰付候へハ、組方格別為筋ニ而可有之、難有御詮義与奉  
存候事

〔付記〕史料の調査・閲覽にあたっては、砺波郷土資料館・富山大  
学付属図書館の皆様のご高配を賜った。記して感謝申し上げ  
る。